

さいたまゴールド・シアター第4回

聖地

作
松井
周

登場人物

木下小春：（女）往年のアイドル。グループ・ホーム「せせらぎの里」で不審な死を遂げる。

【元キノコ・ファンクラブ】

川口：（男）七十代後半。自営業。元ファンクラブ会長。

松尾：（男）六十代後半。元〇〇企業重役。

清水：（男）七十代後半。中小企業を定年退職。

灰田：（男）七十代前半。過去は不明。

沼津：（男）六十代後半。陶芸家。

【「せせらぎの里」職員】

今村 … (男) 七十代前半。院長。

黒崎 … (女) 六十代後半。看護師。

戸畑 … (女) 四十代後半。介護福祉士。

橋本 … (男) 三十代前半。ヘルパー。

南波 … (女) 七十代後半。清掃員。

【「せせらぎの里」入所者】

瀬田 … (女) 七十代後半。認知症。

梶原 … (男) 七十代前半。野球好き。

相馬 … (男) 七十代前半。余命二年の病。

裕子 … (女) 七十代前半。相馬の妻。

矢野 … (女) 七十代前半。絵描き。

ジョージ … (男) 六十代後半。ジゴロ。

津山 … (女) 七十代後半。こども返り。

保坂 … (女) 七十代後半。自称双子の片割れ。

名取 … (女) 七十代前半。地元民。

【警察】

江口 …… (男) 六十代前半。刑事。

九鬼 …… (女) 五十代後半。江口の部下。

【家族】

るみ子 …… (女) 七十代前半。松尾の妻。

信之 …… (男) 四十代後半。松尾の息子。

【語り手】

女 …… (女) 八十代前半。語り手。

【巡礼団】

藤川：(女)七十代後半。史朗の母。

史朗：(男)五十代後半。藤川の息子。

小宮山：(男)七十代後半。無職。

智恵子：(女)五十代前半。小宮山の娘。

水橋：(男)七十代前半。智恵子の夫。

三島：(男)七十代後半。余命三ヶ月。

阿部：(女)六十代後半。余命六ヶ月。自殺願望あり。

遠藤：(女)七十代後半。余命三ヶ月。

丸山：(女)七十代前半。

【元村人】

市川…(男)七十代後半。元村長。

荒木…(女)七十代前半。元村民。

小谷…(女)七十代前半。元村民。

【訪ねる者】

真木…(男)七十代前半。新メンバー。

和美…(女)七十代前半。真木の妻。

児玉…(女)六十代後半。元男。

高橋…(女)六十代後半。元ダンスインストラクター。

目黒…(女)六十代前半。新しく来る医者。

【町役場職員】

後 藤 … (女) 六十代前半。町役場職員。

平 出 … (女) 六十代後半。町役場職員。

見捨てられた場所。

廃墟のようである。

かつてここは老人ホームであった。

老人ホームのロビー。

舞台手前に玄関。

ロビーにはテーブルやソファが置かれている。

ポロ布がかかっている。

ロビーを囲むようにして芝生と緑が植えてあり、

ガーデニングなどが行われていた形跡がある。

上手に事務所へとつながる階段がある。

舞台奥に、上手と下手へつながる通路がある。上手の先には調理場や食堂、ゴミ捨て場、下手の先には入所者の個室があ

るのだろう。

そして舞台奥上方には、ステンドグラスがかかっている。
ステンドグラスの下には、説教台がおいてある。

【1】

みすぼらしい女が一人、ほこらで作った杖をついて、ぬいぐるみを抱いて、汚いソファに座っている。そして、鼻歌を途切れ途切れに歌いだす。

女

ねえあなた 気付いてる？……つて、
昨日髪を切ったの 少しだけ……か。
おでこがかわいいって あなたが……

上手奥で、石が投げ込まれてガラスの割れる音がする。

女

(上手奥を見て) 誰？……(再び歌いだそうとして) あなたが……ほら、
忘れた！ 忘れちゃったよ、歌を。……(ぬいぐるみに) びっくりしちゃうたね、本当に。うん、よしよし……大丈夫だからね。どこにも行かないよ。……せっかく戻ってきたんだもんね、うん。

女、ぬいぐるみを抱いたまま立ち上がって、舞台奥に進む。

女
風……

上手奥から風が吹いている。

女、上手奥に去る。

風の音が強くなる。

舞台上のボロ布が剥がされると、割と新しい家具や床が見えてくる。

【2・1】

夜。食事の時間が終わった頃。

風が強く、雨が降っている。

橋本、説教台の後ろに立っている。

戸畑と黒崎、下手奥から登場。

戸畑はバケツを、黒崎はファイルを持っている。

黒崎　もういいよ。

橋本　あ、はい。

橋本、説教台から降りてくる。

黒崎　報告は？

橋本　あ、異常なしです。

黒崎　あ、はいらない。

橋本　あ、はい、

黒崎 ん？

橋本 いえ、は、はい。

黒崎 もういいから。

橋本 はい。

橋本、上手階段から去る。

黒崎、戸畑、顔を見合わせて苦笑する。そして、ソファに座る。

戸畑 結構強くなってきましたね、雨。

黒崎 うん。

戸畑 怖がりすぎですよ。

黒崎 え？

戸畑 カミナリ。

黒崎 だって、すごい光ったから。音は小さかったけど。

戸畑 幽霊だったりして。

黒崎 何それ？

戸畑 いや、あの、ほら、裏の道下ったところにほこらがあるじゃないですか？ あの、駐車場のさらに奥の。

黒崎 うん。

戸畑 あそこから時々、

黒崎 ちよつと待って！ あたしそっち方面の話、実はダメなんだけど。

戸畑 あ、じゃあ、やめます。

黒崎 ……ちよつと手握っていい？

戸畑 あ、どうぞ。

黒崎 続けて。

戸畑 なんかあのほこらから、時々火の玉みたいのが飛んでくるって言うんですよ。……（黒崎に強く手を握られたので）イタタ！

黒崎 あ、ごめん。え？ 火の玉ってあれ？ あの、こういう（うらめしやのポーズをして）幽霊の周りに浮かんでるやつ？ひとだまだつけ？

戸畑 そうそうそう。ここってダムが出来るはずだったんでしよう？

黒崎 うん。結局中止になったけどね。

戸畑 はい。あそのほこらって、ダム工事が始まったときも動かさなかったんですよね？

黒崎 まあね。

戸畑 だから、それ、よっぽど強い霊がほこらに住んでいるからじゃないかって。結局、ダム計画も中止になったし、村もなくなったわけだから。

黒崎 そりゃ、そうだけど。

戸畑 でもこの施設だけは残ったでしょう？

黒崎 うん。

戸畑 て、ことは、ここにもすごい霊が……（再び黒崎に強く手を握られて）
イタイイタイ！

黒崎 ごめんごめん！ だって、脅かすから。

戸畑 すみません。ちよっと面白くて。

黒崎 名取さんに聞いてみたら？

戸畑 ああ、そうか。あの人、ここの生まれですもんね。

黒崎 鼻で笑われそう。……でも火の玉って何？ あれ、何なの？

戸畑 霊でしょう？おまけの。

黒崎 え？おまけ？

戸畑 そう。だって、ちゃんとした幽霊は人の形してるでしょう？

黒崎 ああ。でも、ひとだまって言うからには人なんじゃない？

戸畑 「たま」だから、まだ人じゃないんですよ、きつと。

黒崎 なにそれ？じゃあ、半人前ってこと？

戸畑 半人前の霊。修行中なんですよ、きつと。

黒崎 ウソだあ。でも、それ、誰が言ってたの？

戸畑 え？

黒崎 火の玉。あれ？ひとだま？

戸畑 津山さんとか保坂さんとか。

黒崎 何だかなあ。……富田さんが亡くなってから、ちよつとみんなそわそわしてるよね。

戸畑 しょうがないですよ、それは。やっぱり。……（バケツの中の陶器の欠片を取り出して）梶原さんも今までだったら、こんなことしなかつたと思うんですよね。

黒崎 でも病室内で素振りすることないでしょう？

戸畑 やっぱ花瓶は置かない方がいいってことですね。

黒崎 天気のせいもあるかな。

戸畑 台風ですかね。

黒崎 （周りを見回して）うん……今日、見回りやだなあ。

戸畑 ジョージさんに言えばどうですか？ あの人エスコートしてくれますよ。

黒崎 やーよ。

戸畑 もてるんですよ、あの人。

黒崎 青春を謳歌してるよね。カツラだけど。

戸畑 今は矢野さん狙いですよ。

黒崎 若いね。

戸畑 矢野さんは迷惑そうですけど。

黒崎 カツラだもんね。

戸畑 それは関係ないでしょうけど。

黒崎 どうかなあ。カツラだよ？

戸畑 ダメですよ。カツラカツラ言っちゃ。ジョージさん気にしてますから。

瀬田、下手から登場。

黒崎 あれ？ どうしました？

瀬田 ……

黒崎 トイレ？

瀬田 ……いや、あの、あれ？ あたしの部屋どこ？

黒崎 戻ります？

瀬田 いや、わかるから。大丈夫。

黒崎 でも……

瀬田 ちよつと休んでから。

戸畑 (瀬田をソファに案内しながら) どうぞ、どうぞ。

瀬田 爪を切りたいの。

黒崎 あ、はい。

黒崎は爪切りをポケットから出して瀬田に渡す。

瀬田 ……切って。

黒崎 あ、はい。(瀬田の爪を切る)

戸畑 そうだ、瀬田さん。明日の私、占ってくださいよ。

瀬田 ……(顔をじーっと見て) そうね、えーと、何事もないよ。

黒崎 良かったね。

瀬田 良くもないよ。

黒崎 あれ？

戸畑 悪いの？

瀬田 そうとも言えない。

戸畑 どっちですか？

瀬田 何もないよ、これから先。死ぬまでずっと。

戸畑 そんな先まで占わないでよ。

今村、上手階段から登場。

戸畑 院長。瀬田さんがひどいこと言うんですよ。

今村 どんなこと？

瀬田 (今村を指して) あんた、誰？

今村 (戸畑に) 確かにひどいね。(瀬田に) 今村です。院長です。

瀬田 用はないから。下がっていいよ。

今村 これだよ。

黒崎 今占いやってもらってて。戸畑さんはプラスマイナスゼロだそうです。

今村 へえ。俺なんかマイナスしか言われたことないよ。ね？

瀬田 ……誰だと思ってるの？ あたしを！

今村 おっと。

戸畑 (丁寧) 申し訳ございませんでした。

瀬田 ……(落ち着く)

黒崎 (爪を切り終わって) はい！ きれいになりました。

瀬田 はい、お世話様でした。

戸畑 はい。

瀬田、玄関の方へ歩く。

戸畑 どこ行くんですか？

瀬田 家に帰ります。

戸畑 瀬田さん、(下手奥を指して) こっち、こっち。

瀬田 ……(下手奥を指して) こっち？

戸畑 こっち。行ってみようか。(今村に) ちょっと瀬田さんのところ行って来ます。

今村 はい。

瀬田、戸畑、下手奥に去る。

院長の今村に看護師の黒崎が書類を次々に渡していく。

今村はその書類にざっと目を通しながらサインをしていく。

黒崎 増やします？ クスリ。

今村 いや、無駄無駄。副作用しか出ないから。

黒崎 多分、瀬田さん、意識してるんだと思いますよ。そろそろあたしの番
なんじゃないかって。

今村 ああ。かもね。

黒崎 はい。しかも不安なんでしょうね、自分でけりつけられるか。

今村 念書はもらってるよね？ いざというときの。

黒崎 はい。

今村 じゃあ、大丈夫。いつ死んでも。

黒崎 でも、あれ、安楽死法って何で七十から適用されるんですか？

今村 ちょうどいいからだろう？ 六十じゃまだ働けるし、八十じゃもう実

行できないかもしれないし。

黒崎 念書も早めにとっておいた方がいいですもんね。

今村 そうそう、周りにとつてもね。安楽死を幫助する側にとつても。

黒崎 瀬田さんもそろそろ「山に行く」頃ですかね？

今村 念書だけもらっちゃえば、後はどうにでもなるって。

黒崎 はい。身内の方もいらつしやらないですしね。

今村 誰か偉い人の二号さんだったんでしよう？

黒崎 はい。前は相当贅沢な暮らしはしてたみたいです。

今村 へえ。遺産とかないのかな。全額こちらに寄付しますとか。

黒崎 ないでしょう。愛人だし。

今村 残念。俺ももう山行こうかなあ。

黒崎 お手伝いますよ、極上のカクテル作って。いつでもコロッと逝けるように。

今村 シャレになんないから。

【2・2】

南波、下手奥から登場。

今村 あれ？ まだいたの？

南波 傘取りに。

黒崎 早く帰った方がいいですよ。

南波 はい。

黒崎 気をつけて。舗装されてないところ多いから。

南波 大雨警報出てるって。

今村 え？ 本当？ 泊まっていたら？

南波 いえ。息子が待ってますから。

車イスに乗った保坂と戸畑、下手奥から登場。

黒崎 お帰り。

戸畑 ただいま。

黒崎 早かったね。

戸畑 はい。(瀬田さんの案内は) 今日はおっけなく。

保坂 あの、来ませんでした？ 今日妹。

今村 ああ、うん。

保坂 そうですか。

今村 雨だからね。

黒崎 明日は晴れるから、きっと。

保坂 はい。

南波 それじゃ、私、失礼します。

保坂 あ、南波さん。

南波 はい。

保坂 最近部屋の隅に埃がたまってます。丸く掃いてるでしょう？

南波 あ、すみません。

保坂 角も掃いてね。私はいいんですけど、妹はぜんそく持ちなんで、その

へん敏感なんです。

南波 はあ。妹さんっていうのは……

黒崎 南波さん、まだここ来て短いから。色々教えてあげて下さいよ。

戸畑 私もです。是非。

保坂 常識ですけどね。

南波 すみません。これから気をつけます。それじゃ、失礼します。

戸畑 また明日。

黒崎 気をつけて。

南波 はい。

南波、玄関に去る。

保坂 私も戻ります。

黒崎 はい。おやすみなさい。

保坂 あと、そうだ。梶原さんが夜中ずっとバット振り回してるみたいなんですけど、あれどうにかありません？

黒崎 素振りでしょう？ 何度も言ってるんですけどね。

保坂 九回裏の実況中継ばかり。ツースリーからファールばかりで、いつケリが着くのかわからなくて、本当イライラするんです。

戸畑 言っておくから。

保坂 はい……（行きかけて）あ、でも私からってことは言わないでね。

戸畑 もちろん。

保坂 メルシー。（玄関を見て）あれ？

戸畑 ？（振り向くと南波がいて）どうしたの？

南波、玄関から登場。その後ろからカッパを着た川口、松尾、清水、灰田、沼津ら、登場。全員、どこか思い詰めた表情。

黒崎 あれ？

南波 帰ろうとしたら、お客さんが。

今村 お客さん？ 面会者ってこと？

黒崎 こんな日に？

保坂、「恥ずかしい、恥ずかしい」等と言いながら、下手奥に去る。

今村 もう面会時間は終わってるんですけどね。

南波 だから、そう言ったんですけど。

川口 いえ、面会じゃありません。

松尾 入居希望で。

今村　そうですか……えーと、うーん、困ったな。

黒崎　あいにくなんです、見学は予約を取っていたでいてるんですよ。

灰田　ここまで来たのに？　ほら、長靴がこんなだよ。（泥だらけなことをア

ピール）

今村　じゃあ、まあ、どうぞお入り下さい。

黒崎　あったかいお茶でも飲みます？

清水　ああ、いいね。身体が冷えてね。ちよっとお手洗い拝借しますよ？…

…えーと……

戸畑　どうぞ。お手洗いはこちらです。

黒崎　今お茶を。

黒崎、戸畑、清水、上手奥に去る。

南波　それじゃ。

今村　大丈夫？

南波　はい。

南波、玄関から来る。

今村 どうも。ここの院長をしています。今村です。

川口 川口と申します。

松尾 松尾です。(指さしながら) 灰田に沼津に、今トイレに行ったのが清水です。

今村 よろしくお願いします。どうぞお掛け下さい。

川口、松尾、沼津、灰田、カップを脱いでばらけるようにソファに座る。沈黙がある。

今村 ……えーと、

川口 (周りを見渡しながら) この造りは面白いですね。

今村 ええ。庭とロビーが繋がっているので開放感があるでしょう。ここはグループホームなんで、できるだけリラックスしていただけるように考えて作りました。

川口 普通の老人ホームと違うの？

今村 まあ、そうですね。特別養護老人ホームなどよりは軽めの障害をお持ちの方、軽い認知症の方が多かったですね。健常者の方も普通にあります。「山に行く」前の慣らすための施設とも言えますね。

川口 しかし、ここまで結構ありますね。

今村 そうですね。まあ山の中腹、丘みたいなところですからね。

黒崎、戸畑、お茶を持って上手奥から登場。

黒崎 どうぞ。

松尾 ありがとうございます。……あのステンドグラスなんかいいですね。

黒崎 そうですね。昼間は光が綺麗ですよ。

松尾 ここは元々教会だったんですか？

黒崎 いえ、結婚式場だったんですよ。

松尾 だから、どこか洒落てるんだ。

灰田 今では葬儀場になったわけだ。

今村 いやいや。

灰田 冗談、冗談。

清水、上手奥から登場。

清水　すごいねえ。何か広くて綺麗なトイレだったぞ。……（手に持ったペ
ンチで下手奥を指しながら）こっちは何？

松尾　…（清水が手に持ったペンチをしまうようにジェスチャーをする）

清水　あ、間違えた。（慌ててペンチをしまい、もう一度下手奥を指して）こ
っち。

今村　そっちは入居者の皆さんの個室です。

清水　へえ。見てもいい？

今村　いえ、プライベートな空間ですので、ちょっと。

清水　あ、そう。

今村　…皆さんはどういったグループなんですか？

川口　どう見えますか？

今村　さあ。会社の同僚？

川口　違います。

松尾　戦友にでも見えますか？

今村 いや……

清水 囲碁クラブの集まりとかね。

灰田 公園仲間。昼間、公園で寄り集まってる連中。家から追い出されて、行くところないからたむろしてんの。

清水 戦友ってのはいいな。

灰田 やだよ。食パンちぎって鳩に投げてる方が様になるって。

南波、玄関からびしょ濡れで登場。

今村 大丈夫？

南波 ……（震えるように首を横に振る）

今村 だから言ったのに。

川口、松尾、清水、灰田、沼津、アイコンタクトを取る。
南波、上手奥に去る。

川口 今村さん。

今村 はい。

川口 私ら、今日ここに特別な用があつて来ました。

今村 と言いますと？

川口 もう、うすうす勘付いてるかと思ひますが。

清水、小型のビデオカメラを取り出して、撮影を始める。

今村 え？ 何ですか？ これ。ちよつとやめて下さい。

川口 まだわかりませんか？

今村 いや、全く……どういったことでしょうか？

川口 木下小春のことについて少しお聞きしたいと思ひましてね。

今村 ……

川口 木下小春。本名、富田みずえ。こちらで亡くなられたのは間違いない
ですよ？

今村 ……お引き取りねがえますか？

灰田 答えになってないよ。

今村 その件に関してはノーコメントです。さあ、どうぞ。お帰り下さい。

川口 こちらで亡くなられた木下小春。愛称はキノコちゃん。私どもはキノコファンクラブの元メンバー、いえ、現役メンバーです。

今村 帰ってください。

清水 ちよつと待ってよ。せっかくここまで来てるんだから、話聞いてくれ
てもいいだろう？

今村 もう終わったことなんです、それは。

黒崎 マスコミの方ですか？

松尾 違います。……ほら、(キノコ型の古いワッペンを取り出す)これでわ
かってもらえますか？

他のメンバーもそれぞれキノコ型の古いワッペンを、恥ずか
しいような、誇らしいような面持ちで取り出す。

今村 ……(本当にわからないので)わかりません。

灰田 わかれよ！

川口 初代ファンクラブ会長を務めておりました。

松尾 二代目です。

戸畑 え？ そんなに有名な方だったんですか？

松尾 そうです、と言いたいところですが冷静に考えればそこまで有名じゃありません。某男性アイドルの妹役というふれこみでデビューしたんですが、鳴かず飛ばずで、結局二年後にはネジ工場でアルバイトしながら、自主的にアイドルをするっていう……

今村 帰れ、帰れ！ノーコメント！ほら、とっとと帰れ！何すんだよ、全く！
清水 こんな老いぼれどもが何するって言うの？ 俺なんか、コツソソウ、コツシヨシヨ、あれ？

灰田 あれだろ？ コツなんとかシヨウ、うん。

清水 そうそう、それ。こいつは胃が半分ないし、な？

川口 うるさいよ。

今村 帰れ！

松尾 (ポケットから週刊誌の切れ端を取り出して) 久しぶりに見たキノコちゃんの記事がこちらのホームでの虐待疑惑の記事でした。

今村 だから、それはデタラメなんだって。裏の階段から落ちただけだ。

松尾 じゃあ、何で身体中痣だらけだったんですか？

今村 ……これ以上は話せない。守秘義務があるからな。

灰田 後ろめたいんだろ？

今村 ……

川口 私たちはキノコちゃんの復讐に来ました。

今村 脅す気か？

清水 いいねえ。忠臣蔵みたいで。

川口 遊びじゃないから。

清水 わかってるよ。

今村 言っておくけど、私は柔道、黒帯だ。

黒崎 合気道、やってます、私も。

戸畑 え？……（後ずさる）

沼津 （沼津ポケットからガラスの小瓶を取り出して）これ、うわぐすりです。陶芸の。

他のファンクラブメンバーも小瓶を取り出す。

沼津 これ、毒薬指定受けてるんですよ。綺麗でしょう？ いざとなったら飲もうって。殉死ですね。あなたに恨みを抱きながらここで死のうっ

て、みんなそう思ってここに来たんですよ。

松尾 だから、五人死ぬと思っ
ていて下さい、もし、あなたが変な行動した
ら。

黒崎 あなたたち……

松尾 あいにく私たちが何の念書も持ってきてないのです。

灰田 五人がいつぺんにここで息絶えたらまずいよね。

沼津 私たちはここを占拠します。あなたはここを去って消え失せるべきです。

今村 ちよつと待て。

川口 もし私たちが死なな
いで済んだらここを老人たちの「聖地」とします。

みなでここで暮らします。

今村 何を勝手に、

灰田 本気だよ。もう私ら後がないのよ。後は「山に行く」だけなんだから。

松尾 そうですね。あなたに私たち五人の命を押しつけた
いんですよ。

今村 そんな脅迫ないだろう。

清水 キノコちゃん
は殺せたわけだから。大した
ことないだろう？

今村 殺してない！
それは裁判で……

清
水
キノコちゃんはどうやって死んだか知りたいって言ってんだよ！

割り込むように、下手奥から何かの曲が流れてくる。ポップ
スでありながらもどこか憂いを帯びたメロデー。
それはこんな歌である。

①ねえあなた 気付いてる？ 昨日髪を切ったの 少しだけ

おでこがかわいいって あなたが言うから

夜を飛び越えて 会いに来て欲しい

これは きつと 夢の続き

ウソでもいいから マイ・ダーリン

清水 これ、もしかして。

灰田 ああ……これ誰が歌ってるの？

黒崎 瀬田さんっていう、軽い認知症の方です。

松尾 うまいな。

川口 ああ。

今村 何だ？ この歌。

灰田 知らないのかよ！

清水 キノコちゃんの話だよ。「会いに来て・マイ・ダーリン」。

松尾 何でこの歌が？

黒崎 瀬田さんは、富田さんと一番仲が良かったんです。

川口、松尾、灰田、清水、沼津、バラバラに歌いだす。

川口、松尾、灰田、清水、沼津、意を決したかのように、今

村に詰め寄っていく。歌と外の風の勢いが増していく。

『幸せなら手をたたこう』が流れている。

手を軽く縛られている今村、職員の黒崎、戸畑、橋本、南波と入所者の津山、相馬、裕子、車イスに乗った保坂、梶原、杖をついた名取が集っている。

どうやらレクリエーションの時間らしく、入所者が思い思いに歌っている。

タンバリンやカステネットを持つ者もいる。

トライアングルをたたく者もいるがうまく音楽に合わせられない。

そのせいで全体のリズムも微妙に狂うが、どうにか続いている。

川口、松尾、灰田、清水、沼津、手をたたきながらレクリエーションを見ている。

川口
（拍手して）ありがとうございました。素晴らしかったです。歓迎し

ていただいて正直ちよつととまどっております。何故なら、えーと、今日から私たちはここを乗っ取るからです。

入居者たち、少し動揺する。

裕子 え？ 乗っ取る？

相馬 歓迎会って聞いたんですけど。

川口 いえいえ、もちろん私たちは皆さんの味方です。

津山、手を挙げる。

川口 (津山を指して) はい、何でしょう？

津山 次、「かつこう」。

川口 え？

津山 ♪静かな湖畔の森の陰から、ハイ！

入居者たち、再び楽器を鳴らして歌い始める。

川口 ストップ！ ストップ！

松尾 （ホイッスルを何度も鳴らして） ストップ！ やめやめ！

沼津、清水、入居者の楽器を取って回る。

戸畑 歌いたいですよ、津山さんは。レクの時間はいつも。

松尾 はい。でも、ちょっとだけ説明を。……まあ、手っ取り早く言うと、

私たちはいまそこにいる院長を追い出そうとしています。何故なら彼は許し難い犯罪者だからです。

今村 茶番だよ。

松尾 私たちは七十歳を過ぎると、自殺をするように、またはすすんで殺されるようにと、法律によって脅迫されます。ここで暮らしていた富田みずえさんもその法律の犠牲になりました。

川口 エコロジ―、そして尊厳死という名の下に私たちは殺され、またはひっそりと自らの命を消さねばなりません。このままでいいのでしょうか？

松尾 私たちはここを、老人たちによる新しい自給自足の施設として蘇らそうと思います。皆さんの仲間でありました富田みずえさん、つまり、元アイドル、木下小春さんの死を無駄にしないためにもどうぞご理解下さい。皆さん、生きていきましよう！

裕子 そんな勝手に。

松尾 それはそうです。

裕子 だって、みずえさんのはあれ、自殺でしょう？ よく「殺して！ 殺して！」って叫んでたし。

川口 それで本当に自殺するでしょうか？

灰田 虐待の疑いもあるしね、

相馬 自傷癖があったのは事実ですよ。見たことあります。壁に頭打ちつけてるの。

清水 そうやって死んだ奴いるのかね。

相馬 あのさあ、僕たちいずれ死ぬのよ。そのために来てるんだから、ここに。

川口 いや、だからそれでいいのかって、

相馬 僕は余命二年って言われてます。妻はいたって健康ですが、一緒に終

わろうって決めてます。逆でも同じようにしたと思います。(裕子に
な?)

裕子 ただしかるべき時に死にたいだけです。

川口 おかしいでしょう。死にたいと思いつながら生きるなんて。

裕子 それは人それぞれでしょう?

清水 法律で決める必要はないって話だよ。

裕子 老兵は去りゆく、です。そう言って亡くなった大臣もいたじゃないで
すか? 道を譲ることで誰の記憶にも残るんです。

今村 有終の美を飾るために、皆さんここに集まってるんです。

灰田 合法的な間引きだよ。

今村 いいか? 最適化法は、日本という国が、船が、沈まないようにするた
めに年配者が自ら犠牲になろうとした、尊い法律なんだよ。

灰田 だから、間引きだろ? それは。

今村 違う! 精神が違う。

梶原 ねえ、あんたら、みずえさんの復讐に来たの? それともここをどう
にかしたいの?

川口 どっちもです。ここにね、聖地を作りたいですよ。

梶原 聖地？

川口 老人たちで運営する自給自足の村です。

梶原 はは！ 大きく出たね。

清水 無茶なことしてるでしょう？

裕子 どうなるんですか？ 私たちはこれから。

松尾 どうにもなりませんよ。ここは今までのまま。ただ、（今村を指して）
彼を追い出します。

相馬 私たちはここに閉じこめられたままなんですか？

松尾 いえ、少しの間です。交渉が無事に済めばもう少し自由になります。

裕子 今出て行っちゃダメなんでしょう？

松尾 雨もすごいですからね。

川口 （入居者に向けて）いいですか？ 皆さん。私たちがここを乗っ取る
ことは説明しました。でもあなた方がどうするかはあなた方にお任せ
します。私たちはここを聖地にするために頑張りますが、皆さんはど
うぞ好きにしてください。もちろん今までと同じには行かないかも知
れませんが。

黒崎 関係ないでしょう？ この人たち（入居者）は。

今村 資金はどうする？

松尾 集める。

黒崎 病気の人もいるんですよ。

川口 だからもちろん医者も呼びます。

南波 あの、すいません。いいですか？

川口 はい。

南波 私、帰りたいんですけど。

川口 泊まったらどうですか？ すごい雨ですよ？

南波 いや、そうもいきません。息子が待ってるんです。

川口 じゃあ、電話をしておけばいいでしょう。

南波 電話通じないんですよ、ずっと。

清水 (ペンチを出して) 切っちゃったよ、電話線。ここ来て、すぐ。

川口 あ、そうだ。忘れてた。

入居者たちが動揺する。

相馬 だって、ここ、携帯も通じないんだよ。

保坂 閉じこめられたってこと？

清水 大丈夫です。すぐつなげますから。俺、いじるの得意だから。

松尾 息子さんはおいくつですか？

南波 四十。

松尾 病気か何か。

南波 特にないですけど。

松尾 じゃあ、大丈夫ですよ。

南波 あんぱん買ってくるように言われてるから。あと、ジュースと。

今村 どうでもいいだろう！そんなこと！

黒崎 今ちよつと危ないから。待ちましょう？

南波 はあ……疲れました。ちよつと奥の仮眠室お借りしてもいいですか？

今村 どうぞ。

南波、上手奥に去る。

梶原 まあ、あんたたちの話はわかったよ。

清水 ありがたい。

梶原 　で？ 差しあたり俺は何をしようかね？

清水 　まあ、普通にしてもらえれば。

梶原 　いやいや、何でも言つてよ。一通りのことはできると思うよ。自衛隊にいたからね。（清水に）あんた、俺の上官そっくりなんだよなあ。

清水 　光荣です。

梶原 　ヒゲ生やすと。上下ひっくり返すと怒ったり笑ったりする絵みたいな顔しててね。

清水 　はあ。

梶原 　じゃあ、まあ、こいつ（今村）の見張でもしようかね。

川口 　お願いします。

梶原 　こいつが俺のこと嫌ってるの。

今村 　何言ってるんですか？

梶原 　薬漬けにしやがって。

黒崎 　だって、梶原さん、暴れるから。

梶原 　逆だよ。眠らされないように運動してるんだよ。眠ったら、何されるかわからねえ。あ、でも、そうするとあれだな……ちよつと待ってくれ。

梶原、下手奥に去る。

黒崎 バットだ。

清水 バット？

黒崎 梶原さんお気に入りのバットです。サインが書いてあるんです。何とかって選手の。それ持ってくるんでしょ。

清水 へえ。誰のサインだろう？

黒崎 自分で書いたんです。真似して。

清水 え？

灰田 それが自慢なの？

黒崎 ええ、まあ。部屋中にその選手の写真やら何やら飾ってて。それで、バットで素振りするんです。部屋の中で。

川口 (全体に) すいません。というわけで……ちよつと今日はこのへんでお開きにしたいと思います。どっちにしろ、この雨ですから外には出ない方が賢明かと思えます。繰り返しですが今までと何も変わりません。ただ、経営者が変わるといふことにはなりません……では、解散

ということだ。

今村 ちよつと待て！ここは俺の病院だ。

川口 みんなの病院です。

津山 院長先生、何か悪いことしちゃったの？

今村 してませんよ。この人達がね。私をいじめてるだけです。

清水 よく言うよ！

津山 あのねえ、ケンカ両成敗だから仲良くしてね。約束！

松尾 はい、約束します。

川口 お休みなさい。

津山 お休みなさい。握手してね！

松尾 はい。

黒崎 橋本君はここにいて。私、みんな見てくるから。

津山、相馬、裕子、保坂、口々に「おやすみなさい」を言い

ながら下手奥に去る。名取は無言で去る。

黒崎・戸畑も去る。

川 口 …さてと…じゃあ、真面目な話しましょうか。今村院長。

今 村 話し合いというには不公平でしょう。

川 口 わかってるでしょう？ それがあつたほうが被害者でいられることを。

今 村 ……

川 口 率直に聞きます。今、借金はいくらありますか？…補助金も随分減らされたって聞きますしね。安楽死法ができたからって合法的殺人に金を出すのは反発が起きる。それなら、長く入院している人に対する補助金を減らそうって方針ですよ、政府は。

今 村 勉強熱心だな。

川 口 こういう小さなホームが立ちゆかなくなることは自明のことです。

今 村 努力してる。

川 口 不動産に手を出して失敗したりね。

今 村 ……あの雑誌は誇張してるんだよ。

川 口 でも否定もできない。

今 村 何が言いたい。

川口 肩代わりしますよ、全て。

今村 できるわけないだろう。

川口 持てる者が払えばいいんですよ。

松尾 住む場所を追われた者が再び集う場所を作る。

そこに金を出す者はいると思いますが。まずは私たちですけどね。

今村 ……少し休ませてくれ。

川口 どうぞどうぞ。前向きにご検討下さい。

清水 (今村を引っ張って) こっち来い。

清水、今村を手荒く立たせる。

松尾 手荒くするなよ。

清水 ああ。

松尾 キノコちゃんは帰って来ないんだから。

清水 わかってるよ。

清水、今村を連れて、上手奥に去る。

松尾 (橋本に) 何故君は僕らをねじ伏せない？

橋本 …別に…して欲しいんですか？

松尾 いやいや、して欲しくないよ。

川口 こんなよぼよぼのやつらなんか一発だろうと思ってさ。

橋本 僕、バイトなんで。…関係ないです。…後、そろそろ仮眠の時間なんですけど、いいですか？ 行っても。

川口 あ、ああ。

橋本 これ時給つけていいんですよね？ 誰か払ってくれるんですよね？

川口 それは、そうするつもりだよ。

橋本 あ、それだけわかればオッケーです。

橋本、上手階段を上って事務室の方に去る。

灰田 (橋本を目で追って) どういう風に見えるのかね、こっちは。

川口 全然わからん。俺は子供がいなかったからな。

灰田 いてもわかんねえよ。孫ぐらいの歳だろうけどな。俺なんか孫にとつ

ては幽霊みたいなもんだよ。まだ生きてたの？って感じだよ。

川口 そんなもんかね。

松尾 一人暮らしはどうなの？

川口 何もないね。一日テレビの前において、ずっと同じ格好で、死んだら、このままの姿で発見されるんだろうなっていう。

松尾 お茶とミカンと白骨死体って？

灰田 ああ。でも案外俺たちとああいう若い奴らって実は似たような生活してんじやねえかな。

川口 (上手階段を指して) まあ、あいつは割とまともだろ？ しっかりしてるよ。

松尾 波風立てたくないってだけだろう。

川口 それも一つの生き方だよ。

沼津 交代で休みませんか？ それぞれ仮眠をとらないと。

ジョージ、矢野、戸畑、下手奥から走って登場。

ジョージ ごめん、ごめん、ごめん！

矢野 ちよつと本当、しつこい。それじゃストーカーよ。

ジョージ そんなことないって。たまたま歩く方向が同じなの。

戸畑 ジョージさん、戻ろう。

ジョージ (川口たちに気付いて) あれ？……ああ、あんたたちがあれか。テロリストか。

川口 いや……

ジョージ 戸畑さんから全部聞いたよ。

川口 どう伝わってるのか不安ですけど。

戸畑 ちゃんと説明しました。

ジョージ 俺は反対。ここは俺たちの居場所だよ。

松尾 うーんと……

清水、上手奥から登場。

清水（今村は）寝ちゃったよ。いびきかいて寝てる。

川口 ああ、ご苦労さん。

矢野、下手奥に去る。戸畑、ジョージを制するようにして、
自分も後を追うように、下手奥に去る。

ジョージ ちよつと！ ちよつと待ってよ！……（川口を睨んで）あんたがリ-

ダー？

川口 はい、まあ、何となく……

ジョージ 波風たてないですよ。みんな好きでここにいるんだから。

川口 そうとも限らないんじゃないですか？

ジョージ 少なくとも俺はそうよ。好きなことやって、クスリ飲んで、はい、お
しまい！って感じで死ねればいいって。

松尾 それはやけくそのように聞こえますけどね。

ジョージ そうよ！ やけくそよ！ やけくその何がいけない？ 毎日お祭りみ

たいに生きて、祭りが終わる前に死ぬってのが俺の理想だからね。今更誰かに邪魔されたくないわけよ。

松尾 そう思わされてるって思いませんか？

ジョージ 俺がそれでいいって言ってるんだから。

松尾 いえ、それは多分、「老人は役立たずだ」って言われ続けたから、やけ

くそになってるんじゃないですか？

ジョージ だって本当に役に立たないもん。役に立たないことに誇りすら感じるよ。

松尾 役に立たないと生きてちやいけないんですか？

ジョージ 逆だよ。もう生きなくていいって思えるわけ。

ジョージ、下手奥に去る。

川口 ゆっくり進めよう。

灰田 ゆっくりしか進められないからな。

松尾 (沼津に) お前、インシュリン打たないとあれだろう？

沼津 ああ。

松尾 体調整えないと。

灰田 どっかしら故障はしてるけどな。

松尾 (頭を指して) こっちもな。

灰田 そうそう。とっくに壊れてる。

清水 俺、ちよっと前のことすぐ忘れてるんだよ。でもキノコちゃんのこと
はしっかり覚えててな。

灰田 そこはな。

松尾 ああ。

沼津 焼き付いてるんだよ、頭に。

突然、暗くなる。

灰田 あ、
清水 停電か。まいったな。
川口 いや、ちようどいい。消灯だ。

川口、持ってきたバッグからランタンを取り出して、舞台中央に置く。

川口 じゃあ、俺と清水でまずは見張るから、他の奴らは仮眠を取れ。ちよ
つと俺病室見てるわ。

清水 ああ。

各自、呑気に返事をする。

松尾、沼津、灰田、上手奥に去る。

川口、下手奥に去る。

裕子、上手階段から登場。

裕子 あのと、

清水 うわ！ 何？ びっくりした。

裕子 すみません。ちょっと人に見られたくないので。

裕子、周りを気にしながら素早く清水に近づき、手を握る。

清水 ちよつと、ちよつと。

裕子 一つお願いがあるんです。

清水 何？ 年寄りをからかわないでよ。

裕子 夫には言わないって約束してくれませんか？

清水 (肩に手を回して) ああ。

裕子 え？ (肩の手を払いのけて) やめて下さい。

清水 (裕子と距離を離して) ……うん。

裕子 私、死にたくないんです。

清水 ああ……え？ そうなの？

裕子 夫は私がそう思ってることをきつと知りません。

清水 言えばいいじゃない。

裕子 言ったら、あの人ひどくショックを受けると思います。私に依存しきってるので。

清水 うーん、じゃあ、例えば、死ぬときに自分だけニセのクスリ飲んだら？

裕子 それがあの人、「お前がさびしくないように、先に死んだのを見届けてから死ぬ」って聞かないんです。

清水 ああ、なるほど。

裕子 「それが俺の義務だ、優しさだ」って、泣いて言うんです。

清水 困ったね。

裕子 それはいいんです。もう決めたから。

清水 え？

裕子 私、決めたんです。明日ここを出ます。

清水 それは、

裕子 もし、夫が私の側から離れなかったら夫を強引にでもおびき出して欲

しいんです。

清水 俺が？

裕子 嫌ですか？

清水 いいけどさあ……

裕子 ありがとうございます！

清水 でもだんなさん、ちよつとかわいそうだなあ。

裕子 心中を強制されてもそう思いますか？

清水 いや、

裕子 夫に殺される夢ばかり見るんですよ。

清水 何で俺に頼むの？

裕子 え？ ここにいたから。……おかしい？

清水 ああ、そう。

灰田、上手奥から登場。

灰田 替わるよ。

清水 え？ いや、まだ、いいけど？

灰田 まだ俺眠くないんだよ。(裕子に) ああ、どうも。
裕子 どうも。……(清水に) よろしくお願いします。
清水 はい。
裕子 おやすみなさい。
清水 ああ、おやすみ。

裕子、下手奥に去る。

灰田 何? もてるね。
清水 え? まあな。
灰田 異常あった?
清水 異常と言えれば異常だよ。どいつもこいつも。
灰田 え?
清水 寝るわ。
灰田 ああ……おやすみ。

清水、上手奥に去る。

灰田、ゆっくり周りを気にしながら歩く。ポケットから小さな酒の瓶を取り出して飲む。そして、小さなラジオを取り出して、音楽を聴く。そして、ソファに寝そべる。
ちらつと下手奥から上手奥に人影が通り過ぎる。

灰田 ああ、ごめんなさいね。うるさかったですか？

返事はない。

梶原、上手奥から登場。

梶原 あれ？ あの、バット持って来たんだけどね。

灰田 あ、すいません。

梶原 (バットを灰田に近づけて) これ、安藤がね、三冠王獲った時の記念バットなの。

灰田 すごいね。

梶原 でしょう？ これでちよつと見回りしてきます。

灰田 灯りなくて大丈夫？

梶原 大丈夫。ガードマンやってたから、慣れてるの。

梶原、下手奥に去る。

今度は舞台上手階段に人影が現れる。

灰田、その方向に目を向けるが、人影はまた消える。

灰田 ……誰だよ。

ラジオから木下小春の曲が流れ始める。

灰田 おいおいおい……

灰田、その場から去ろうとするが思いとどまる。

舞台奥に後ろを向いた人影がある。

灰田 (後ろを振り返りながら) キノコちゃん? ……だよな? ……何やってるの?

どうやら木下小春の人影のようだ。

若い頃と同じように見える。

ゆつくりとボーリングの球を投げるような動作をする。

灰田 あー、あれだ…:ボーリング大会。ずっとガーターだったのに、いきなり初めてストライク出して。キノコちゃん跳び上がって喜んでな。

木下小春、もう一度ゆつくりとボールを投げる動作をする。

灰田 俺、ここに来る前にさ、キノコちゃんが前に住んでたアパートも行ってみたんだよ。散歩がてらに。階段が随分急だったね。危なくなかった? ……そこ、今は別の人が住んでたよ…:鳥の巣箱が作ってあった。こんなちっちゃい、あれ牛乳パックで作ったのかな? 屋根があつて、穴くり抜いてあつてさ…:あれ、もしかしたらキノコちゃんが作った

んじやないの？……小鳥好きだったでしょ？……（ラジオを聴いて）
これ、振り付け覚えたな。

木下小春、振り付けのように踊る。灰田にも踊るように促す。

灰田 いや、俺は、遠慮しとくよ。

ラジオから木下小春の若い頃の声が聞こえてくる。

木下（声） 覚えててくれたんだね。ありがとう。

灰田 そりゃあね。

木下（声） 私、歌も下手だし、

灰田 ああ。

木下（声） 踊りも出来ないし、

灰田 確かに。

木下（声） 自慢できるものなんてなかった。

灰田 うん。

木下（声）　なのに、何で？

灰田　何でだろうなあ……

木下（声）　少しはほめてよ。

灰田　ごめん、ごめん。でもわかんねえや。俺にも。ただ……キノコちゃんがいるって思うと、何か嬉しくてしょうがなくてさ。今もそう。泣きたいような、笑いたいようなさ。

木下（声）　本当？

灰田　本当。

木下（声）　これが夢でも？

灰田　うん。いつも夢の中にいるみたいなんだから、この歳になると。

木下（声）　行かなきゃ。

灰田　ああ、そうか、そうか。

木下（声）　じゃあね。

灰田　あ、一つだけ聞いてもいい？

木下（声）　何？

灰田　キノコちゃん、幸せだった？

木下（声）　……

木下小春、説教台の後ろにまわり、声には出さずに「一緒に
行こうね。」と言う。

灰田 え？ 何て言った？

木下小春、無言で舞台奥の暗闇に去る。

灰田、説教台まで追いかける。

暗転。

ラジオはクラシック音楽に変わっている。

灰田はいつの間にか説教台の裏で寝ている。

ゆつくりと朝の光が入ってくる。

保坂、下手奥から車イスのまま登場し、ステンドグラスの前でお祈りをしている。

るみ子（松尾の妻）、庭に登場。

ホームの庭をぐるりとまわる。ホームの中は暗く、庭は朝の光で明るい。

信之（松尾の息子）、庭に登場。

信之（携帯電話に耳をあてて）……ダメだ。繋がらない。電波入らないわ。

るみ子 美里さん？ 繋がったら替わって。謝りたいから。

信之 謝ることないって。母さんだって被害者なんだから。……（携帯電話に耳をあてて）やっぱりダメだ。

沼津、庭に登場。朝の散歩帰り。

沼津 あ。

るみ子 あ、(優しく笑いかけるように) どうも。

沼津 ……どうも。

るみ子 いいお天気で。

沼津 (軽く会釈して) ……あの……どなたですか？

るみ子 はい、あの……何と申していいか、こちらにあの昨日からお世話にな
っております松尾という者の妻でございます。

沼津 え？

るみ子 こちらの方々には本当にご迷惑をおかけして申し訳ありません！(袋
から風呂敷に包んだ菓子折か何かを取り出して) これつまらないもの
ですが……

沼津 松尾さんの。

るみ子 あ、ご存じですか？

沼津 ご存じも何も同じファンクラブのメンバーですから。

るみ子 え？……お名前は？

沼津 あ、沼津と言います。

るみ子 ……（菓子折を手元に引っ込めて）へー、あ、そうですか……その、何と申していいか……ご自分が何をされてるかご存じないんですか？

沼津 どういうことでしょうか？

るみ子 失礼ですけど、もしかしてうちの人を誘ったの、あなたですか？

信之 母さん！ すみません。

るみ子 どうなんですか？

沼津 いえ、まあ、みんなの合意の上ですけど。

るみ子 責任者はいるでしょう。

沼津 そういう意味では、松尾さんが一番積極的でしたけどね。

るみ子 ……

沼津 私は陶芸をやっておりまして、ここで陶芸教室をやらないかと誘われました。

信之 あの、ちょっと父と話がしたいんですが、よろしいでしょうか？

るみ子 中に入れてください。

沼津 他の入居者の方もいますんで、お静かに。

るみ子 わかってますよ！

信之 声大きいよ。(沼津に) すみません。

沼津 いえ。

るみ子 すぐそうやって母さんを悪者にする！

信之 違うよ。

沼津、中に入る。

るみ子、信之も中に入る。

るみ子 お邪魔します。

信之 失礼します。

るみ子 あれ？ 誰か寝てる。

沼津 おい。

灰田 ……

沼津 彼もメンバーの一人です。

るみ子 よく寝られるわ、こんな時に。

沼津 はあ……

るみ子 (保坂を見つけて) あの方は？

沼津 あの人はこの入居者です。

るみ子 (保坂に声を飛ばすように) お邪魔します。

保坂 (祈っている) ……

るみ子 ……ここ、教会なんですか？

沼津 いえ、もともと結婚式場だったらしいです。

るみ子 へえ。

信之 それで、あの、ちょっと父を呼んできていただけませんか？

沼津 あ、はい。どうぞおかけになって。

るみ子 はい。言われなくても。

信之 ありがとうございます。

沼津、下手奥に去る。

るみ子 あー、喉かわいた。(財布から小銭を出して) これで何か買ってきて。

信之 ああ。でもあるかな、そんなの。

るみ子 ないわけないでしょ。

信之、上手奥に去る。

保坂、るみ子に近づく。

保坂 おはようございます。

るみ子 おはようございます。ごめんなさい。邪魔しちゃいました？

保坂 いえ。

るみ子 ……あの、こちらって「山に行く」ための施設なんですよね？

保坂 はい。

るみ子 「山に行く」ってどんな感じですかね。私もそろそろ準備をしようかって。

保坂 まだ早いでしょう。

るみ子 いえ、そろそろなんです。

保坂 ……降りるって感じですか。汽車から降りるっていうか、その、もう、世の中に追いつかないって感じなんですよ。心も身体も。

るみ子 ああ……

保坂 違いますよ。(車イスを指して)これは自転車みたいですがごく便利なんですよ。身体って、もつと、細胞のことですかね。

るみ子 ああ。

保坂 細胞がもうふわふわしてきて。心も一緒にふわふわしてきて。蒸発するみたいな感じで。

るみ子 へえ。

保坂 消えるっていうか。……私はね、妹に挨拶だけしたらそろそろ「山に行く」つもりなんですよ。

るみ子 決心されたんですね。

保坂 でもそういうときに限って、面会に来ないんですよ。

るみ子 ええ。……私、松尾という……

保坂 はい、実は聞いてました。

るみ子 すみません。皆様にご迷惑をお掛けしまして……

保坂 いえ、面白いです。

るみ子 いや、本当にどうしようって……

保坂 私はもう気持ちは変わらないですけど。

松尾、下手奥から登場。

松尾 ああ、来たんだ。

るみ子、一旦気持ちの昂ぶりを抑えようとするが、無言で松尾に近づき、ハンドバッグで殴ろうとする。松尾、それを防
御しながら受ける。

保坂 ちよつと！ 誰か！

松尾 大丈夫です！ 大丈夫！

るみ子 ……どうして？ どうして、こんなことになってるの？

松尾 手紙に書いた通りだよ。許せないことがあって、やるべきことをやる
うと思つた。

るみ子 誰なの？ その何とかつて歌手は。

松尾 木下小春。キノコちゃんだ。

るみ子 キノコちゃんって！ 恥ずかしくないの？ そんなアイドルとかなん
とかつて。

松尾 恥ずかしくないよ。

るみ子 恥ずかしいの！ あたしは！ 恥ずかしがるべきよ、あなたも。何を

言ってるのよ、いい大人が。

保坂 奥さん、落ち着いて。

るみ子 信じられない。

松尾 殺されたんだ、キノコ……木下さんは。

るみ子 ……私は一人で死ねって？

松尾 そういうことじゃない。

るみ子 そういうことよ。その時が来たら、私一人で死ぬしかないでしょう？

松尾 だから、それは悪かったと思ってるよ。離婚届にも判を押しただろう？

るみ子 だから、勝手すぎるでしょう？ それは。

松尾 とつくに終わってたじゃないか、俺たちは。

るみ子 ……何それ？

松尾 え？

るみ子 私のせいだっというの？

松尾 言ってるじゃないよ。

るみ子 全部あなたのせいじゃない！

松尾 (保坂を気にして) あっちに行こうか？

るみ子 嫌よ！……いくつになっても若い子が好きで、自分の歳忘れてのめり

込んで、振られての繰り返しだったじゃない。

松尾 自分でもわかってるよ、バカだってことは。

るみ子 わかってない！

松尾 わかってるよ。

るみ子 わかってるなら何でまたこんなバカなことしてるわけ？

松尾 ……

るみ子 返してよ……私の、何？ あれよ……やだ、こういうとき言葉が出てこない。(保坂に) やあねえ。

保坂 人生、ですかね？

るみ子 そう！ 人生とか青春とか……その他諸々を！ こっちはずっと我慢してたんだ！……ずっとずっと我慢して、ようやく少し楽になったと思ったら、最後にこんなふうに裏切られて……何だと思ってるの？
ひとの人生！

るみ子、力が抜けたようになって、ソファに倒れ込む。

松尾、近づく。

るみ子 触らないで！

松尾 ……

るみ子 あー、なんか、このへん（胸）が苦しい……神様……（笑って保坂に）

あたしもそこで祈ろうかしら。

保坂 大丈夫ですか？

るみ子 はい。ありがとうございます。……とにかく、すぐうちに戻って、それから話しましょう。

松尾 ……それはできない。

るみ子 は？

松尾 手紙にも書いただろう？

るみ子 ……

松尾 すまない。

るみ子 ……あ、そう。頑固ね、相変わらず……信之も来てるんだけど。

松尾 そうか。

るみ子 あの子は「親父の勝手にすればいいだろう」って。……ところであなた本当は一体何したいの？

松尾 ちっちゃな革命みたいなものだな。

るみ子　へー、よっぽど大事なんだ、それが。あたしよりも、家族よりも……
へー……（静かに泣く）。

信之、戸畑、上手奥から、笑いながら登場。

信之、マグカップを二つ持っている。

信之　（笑って）いや、本当、本当。なかったら牛乳でもいいみたい。

戸畑　本当ですか？

信之　だんなに作ってみるといいよ。

戸畑　いませんから。

信之　（大げさに驚いて）ウソでしょう？　こぼしそうになっちゃったよ。
……あれ？　父さん。

松尾　おう。

信之　おうじゃないよ。

るみ子　カエルの子はカエルか……

戸畑　おはようございます。

るみ子　（にっこりと）おはようございます。

戸畑　なんか今こちらもばたばたしてまして、すみません。

るみ子　いえいえ、こちらこそ主人がご迷惑をお掛けいたしました。

戸畑　ええ……まあ、確かに。

るみ子　本当に。……（信之に）早く。

信之　何？

るみ子　水でしょ？　それ。

信之　あ、看護婦さんがコーヒー入れてくれた。

るみ子　コーヒー？……何で？

信之　いや、せっかくだから。

るみ子　水が飲みたかったの！　あたしは！　水も飲んじやいけないの？　も

う！

戸畑　あ、あの！　お持ちしましょうか？

信之　（戸畑に）あ、いいのいいの！（るみ子に）そういうこと言うなって、

だから。何？どうしたの？

るみ子　みんなであたしをバカにして！

戸畑　……あの、ちよつと皆さんを起こしてきますので、失礼します。

信之　（戸畑に）ありがとうございます。

戸畑 いえ。

保坂 (るみ子に) あの、私もこれで。気をしっかりね。

るみ子 死んだ方が楽かも。

保坂 まだ大丈夫よ、そう思ってるうちは。

るみ子 はあ……

保坂 うん。(戸畑に) あ、戸畑さん、言ってくれました？ 梶原さんに。素振りのこと。

戸畑 あ、忘れてた。

保坂 ほら、やっぱり。昨日なんか夜中ずっとバット持って、廊下を行ったり来たりして本当、怖くて。

戸畑 ああ……

戸畑、保坂、下手奥に去る。

るみ子 でれでれして。何しに来たの？ ここに。

信之 わかってるよ。

るみ子 もう疲れた。

信之 うん。……（松尾に）元気？

松尾 ああ、元気だよ。

るみ子 何よ、それ。

信之 黙ってて。……（松尾に）俺はね、正直最初は「何してくれてるんだよ、もう。」って思ったよ。「この大事なときに」って。ほら、俺の今のプロジェクトって、良くも悪くも父さんの息のかかった人に背中押ししてもらって始めたわけだから。ぽしやる可能性あるなって。夜中高速道路走ってるときは、もういらいらして。

るみ子 百五十キロ出して。死ぬかと思ったよ。

信之 でも今日ここ来て、なんか、この、山奥に父さんが隠居するのもいいのかなあって思えてきて。

松尾 そんな簡単じゃないけどな。

信之 まあいいんじゃない？

松尾 そうか。

信之 でも母さんのことはさ……前から色々あったけど、今回ののはちよっとひどいよ。

松尾 ……

信之 だったら、もつと前に別れてればいいじゃない。今になってこれはないよ。

松尾 でも誰かがやらないと……

信之 いや、いや、それは違うと思う。父さんは、つまり、逃げたいんだよ、現実から。まあ、でも俺は吹っ切れた。ただ、母さんのことだけは、慰謝料とかそういうの含めてきちんとして欲しい。

松尾 ああ、それはもちろん、もちろんもちろん、そうするよ。

信之 ……(激昂して父に) おまえ！ 何、ほっとしてんだよ！ そんな顔してんじゃねえよ！

松尾 ……

るみ子 声大きいよ！

信之 ……ごめん。

るみ子 ……わかったわ。なんか私もちよつと落ち着いた。……好きにして。また連絡する。……(信之に) 行きましょう。

信之 あ、これ(セカンドバッグから娘が描いた絵を松尾に渡す) ……桜がね、夏休みに会いたい人、欲しいものを描けって言われて。

松尾 ……

信之 (絵を指しながら) ほら、スイカとか、アイスとか、その水色が父さん、何で水色なのかわかんないけど。

松尾 ああ……相変わらず、下手だなあ。

信之 そうなんだよ。似てるだろ？ 俺に。

松尾 俺にもだ。

信之 ああ。じゃあ、行こうか？

るみ子 まあ、連絡だけはちようだい。色々手続きもあるし。

松尾 うん、もちろん。

るみ子 元気で。

松尾 そつちも。

るみ子 ……さよなら。

松尾 ……さよなら。

るみ子、くるっと振り返り脇目もふらず玄関から去る。

信之 じゃあ、また。

松尾 うん、桜ちゃんと美里さんによろしく。

信
之
うん。

信之、舞台前から去る。

松尾、緊張が解けたかのように、ソファに腰を下ろす。

灰田 ……ご苦労さん。

松尾 起きてたのか？

灰田 ああ。

松尾 情けないだろう。

灰田 似たようなもんだよ、俺だって。

松尾 (絵を掲げて) 孫が描いてくれた。

灰田 ……いいんだぞ？ 無理しなくて。

松尾 無理するよ。俺は……いや。

灰田 言えよ。

松尾 俺は本当に若い女が好きだ。

灰田 (笑って) 俺だって負けねえよ。

松尾 いや、本当の本当に好きなんだ。若い、若い女が。つまり、いわゆる……ロリコンってやつだ。そのことで女房にも子供にもさんざん迷惑

をかけてきた。

灰 田 それは……

松 尾 いや、もちろん、法律に触れることはしてないよ。

灰 田 じゃあ、大丈夫だよ。

松 尾 ただ……この先わかんなくてな。……退職してからずっと、散歩しても、電車に乗っても、孫が遊びに来てても、自分が信用できない。視線が泳いで、動悸が激しくなって、何かしてしまいそうになる。手を握るくらいならとか、髪を触るくらいならとか、どんどん妄想が膨らんで……

灰 田 若い子がかわいいのは当然だよ。

松 尾 さらに閉じこめて、なんか……なんか、とんでもないことするんじゃないかって……だから俺は、キノコちゃんの思い出にどっぷり浸かって、そのまま死ねたら本望だと思ってここに来た。

灰 田 革命とはほど遠い話だな。

松 尾 そうか？ まあな。俺は引きこもりたいんだ。ずっとそうしたかった。

灰 田 お前さあ、すぐくくだらないことを、立派そうにしゃべるよな。

松 尾 ああ、そうだ。

川口、沼津、清水、上手階段から登場。

川口 おい！ 警察だ警察！ あっちの駐車場にいるみたいだ。

松尾 何で？

川口 さあ、わからん。

清水 窓から見えたんだよ、パトカーが。

灰田 誰かがもらったのか？

清水 いや、電話線も切ったし、携帯はそもそも入らないし。

舞台前方から、庭に刑事の江口と九鬼が現れる。

川口 笑って。ここの入居者の振りしてろ。

皆、無理矢理笑顔を作って、ゆっくり老人のように歩く。

江口、九鬼、玄関から入ってくる。

江口 ごめん下さい。

清水 はい？

江口 どうも。警察の者ですけれど、ちょっとお邪魔してよろしいですか？

清水 ああ……どうぞどうぞ。

九鬼 すみません。こんな朝早くに。

江口 院長先生いらつしやいますか？

清水 どうでしょう。

九鬼 お留守ですか？

清水 ……

九鬼 (耳元で大きく) 院長先生にお会いしたいんですけど。

清水 (礼をして) はい、ごきげんよう。

九鬼 え？ あの……

川口 院長先生？

九鬼 はい。ご存じですか？

川口 今、トイレだと思えますけどね。

九鬼 そうですか。

津山、橋本の手を引っ張って、下手奥から登場。

津山 おはよう。

橋本 おはようございます。

元ファンクラブメンバーは口々に挨拶する。

津山 誰？

江口 おはようございます。警察の者です。

津山 え？ 逮捕？

九鬼 いえ、あの、ちよつと院長先生にご挨拶に。

津山 逮捕じゃなくて？

九鬼 はい。もちろん。

津山 じゃあ、あやとりしてもいい？

九鬼 どうぞどうぞ。

橋本 ご飯って出来てます？

沼津 いえ、ちょっとわからないです。

橋本 (上手奥をちょっと覗いて) 何にも音がしないから。

津山 ハシモ! あやとり!

橋本 はいはい。

津山と橋本、ソファに座ってあやとりを始める。

江口 皆さん、お早いですね。

松尾 そちらもお早いですね。

江口 ええ。昨日の台風でね、ちょっと心配になって早く来てみたんですけどね。大丈夫そうですね。

灰田 外はどうなの?

九鬼 結構すごいことになってますよ。木があちこちで倒れてますし。

川口 ここまで来るの大変だったでしょう?

九鬼 ええ。こう降りて木をどかしながら。あ、そうだ。あの裏のほこらも流されてて。

川口 え?

九鬼 裏のほこら。ご存じないですか？

川口 あ……（話を合わせるように）ああ、あれ。

江口 今見たら跡形もなくなつて。あれ、目印にしたからここに来るのも迷っちゃいましたね。

九鬼 村の人が知つたらたたりとか言いそうですよね。

江口 多分ね。……ねえ。（九鬼に）ちよつと看護師さん、呼んできて。
九鬼 はい。

上手の階段を上がろうとする。

川口と松尾、その道を遮ろうとする。

松尾 あ、

九鬼 え？ なんですか？

川口 いや、あの、

松尾 （上手奥を指して）こっちです。呼んできますよ。今。

九鬼 いいですよ。皆さんはご自由に。

松尾 いえ、呼びに行くのが、私の、ここの仕事なんで。

川口 そう。(慌てて思いつきを述べるように) 私は彼(松尾)を見守る仕事で。

九鬼 え……(江口と顔を合わせて) じゃあ……

松尾 はい!

川口 (松尾を指して) よし! どうぞお待ち下さい。

松尾、上手奥から去る。

江口、九鬼、ソファに座る。

江口 懐かしいね、あやとり。

九鬼 あたし、得意でしたよ。ほうきとか、はしごとか。

津山 (橋本とあやとりしながら) そういうのもできるよ。ねえ? ハシモ。

橋本 ああ。

九鬼 あと、チョウチョとか手品も。

津山 (橋本とあやとりしながら) そういうのもできるの!

九鬼 あと、

津山 ちよつと黙ってて! 集中してるから!

九鬼 ごめんなさい。

津山 もう！ じゃあ、これ知ってる？

津山、あやとりのヒモを首にかける。

津山 こうやって首にかけて、死んだら完成。

江口 ……それはあやとりじゃないよね。

津山 あやとりだよ。みずえさんが教えてくれたの。

九鬼 みずえさんて富田さんのこと？

津山 うん。これが一番強いあやとりだって。

清水 キノコちゃんがそう言ったの？

津山 え？ 誰？

清水 あ、みずえさんが。

津山 そう。これもらったんだもん。ずっと前に。

清水 どういうこと？

津山 思い出したの、昨日の夜。昨日、みずえさんに会ったから。

清水 え？

川口 ……どこで？

津山 部屋で。「お邪魔します」って。だからあたしも「どうぞ」って。それだけ。

清水 だって、みずえさん死んじゃったでしょう？

津山 うん。でも、ふらーっと遊びに来たみたい、ここ。

今村、松尾、上手奥から登場。今村が前を歩く。今村、縛られていた手首を少し触るが、その部分は隠れている。

江口、九鬼、立ち上がる。

今村 おはようございます。

江口・九鬼 おはようございます。

津山 おはよう。

今村 おはよう。（江口・九鬼に）どうぞお掛け下さい。

今村、江口、九鬼、座る。

江口 昨日電話が繋がらなくてね。ちよつと心配になったものですから。

今村 ご心配お掛けしました。

江口 皆さん、ご無事ですか？

今村 無事と言えば無事ですな。

江口 と、言いますと？

川口たち、今村を見る。

今村 ……私……雷が苦手で。

川口たち、目を反らす。

九鬼 (笑って) すみません。いえ、意外と男の人でも怖いのかなって。

江口 ばか。山の雷は死ぬんだぞ。

九鬼 すみません。

江口 いや、でもとにかく安心しました。

今村 ご心配おかけしました。もう大丈夫です。

江口 (他の者らをぐるりと見回して) 皆さんもおけがなどありませんか？

元ファンクラブメンバー、少し緊張しながら首を横に振る。

江口 そうですか。じゃあ、私どもはこれで。

九鬼 お邪魔しました。まだ外はぬかるんでるところもあるので気をつけて
下さいね。

津山 バイバイ。

他の者たちも口々に挨拶する。

【4・4】

突然、ガラスの割れる音がする。
そして、保坂の悲鳴がする。

黒崎（声） 梶原さん！ やめなさい！

梶原（声） どけよ！

戸畑（声） キャー！

保坂、車イスを走らせて下手奥から、登場。

保坂 助けて！ 誰か！ 梶原さんが！

江口、九鬼、走って下手奥に去る。

梶原（声） イテ！

川口 どうした！

川口、橋本、保坂の近くに行く。

保坂 梶原さんが急にバット持って暴れ出して。

梶原、黒崎、戸畑、江口、九鬼、下手奥から登場。

江口は梶原の手を後ろにねじり上げるようにしている。

九鬼はバットを持っている。

黒崎は頭を押さえている。

梶原 (保坂を指して) 落書きしたよな？ 俺のバットに。な？

保坂 してません！

梶原 しただろう！

保坂 違います！ 注意書きです！

梶原 は？

保坂 「一、屋内で振らない！ 二、夜中に振らない！ 三、喋りながら振らない！」 って書いただけです。

梶原 立派な落書きじゃねえか。

保坂 だって、だって、本当に迷惑だったから。

戸畑 やめて下さい。ね？ あたしが忘れてたから。保坂さんにいつも頼まれてたのに。ごめんなさい！

相馬、裕子、ジョージ、下手奥から登場。

瀬田が矢野に支えられる形で登場。

瀬田、ソファに座らせられるがうまく自分の身体を支えられない。瀬田、ぶつぶつと何かを喋っている。

ジョージ 何、何？

戸畑 ちよつと取り込んでて。

ジョージ 何？ 梶原さん？ ダメだよ。

梶原 うるせえ！

ジョージ 怒られちゃった。ねえねえ、お腹すいたんだけど。

戸畑 すいません。今すぐ。

ジョージ え？ まだできてないの？

戸畑 ごめんなさい。

ジョージ えー！

戸畑 こっちは殺されかけたんだよ！ つべこべ言うな！ この、ハゲ！

ジョージ え？

戸畑 そんなモツプみたいなカツラして。

ジョージ (矢野を見て) モツプって……

相馬 それ、みずえさんのバットですよ、確か。

九鬼 え？ そうなんですか？ 院長。

今村 いや、ちよっとわからないけど……

相馬 みずえさんが昔、何とかって選手にもらったって言ったのを聞いたことがあります。

戸畑 え？ でも、梶原さんが自分で書いたって。

相馬 いや、僕、みずえさん本人から聞いたから。え？ 黒崎さんだって知ってるでしょう？ ねえ？

黒崎 ……覚えてないです。

相馬 そうですよ？ 梶原さん。

梶原 俺のだよ。

相馬 え？

瀬田 (唸るように) うー、うー。

矢野 (戸畑に) すいません。なんか、瀬田さんがちよつと昨日からおかし

いんですけど。うわごとを言ってるみたいで。

戸畑 瀬田さん、瀬田さん、大丈夫ですか？

瀬田 ……あつつい、あつついキノ。

灰田 え？

瀬田 ……なんか、冷房効いてなくないキノ？

灰田 キノコちゃん？

瀬田 何、何？ 久しぶりだキノ。元気ノ？

川口 え？ 本当に？

黒崎 富田、さん？

瀬田 やめて、やめて。今はキノコって呼んでキノ。

松尾 おい、これ！

灰田 ウソだろう……

瀬田 (振り付けのように) くるくるプリンにすつとこポンピー！ はーい、

お預け！

松尾 出た！

戸畑 え？ 何ですか？

灰田 キノコちゃんがやってたプリンของシー・エム。

戸畑 瀬田さん、大丈夫ですか？

瀬田 あー、今はこの人（自分）ちょっと寝てるキノ。キノコが来ちゃったから。

松尾 キノコちゃんだ！

川口 降りてきた！

梶原 ……ウソだ。みずえさん、なの？

梶原、江口の手を振り切って、瀬田の前に立つ。

瀬田 （手をあげて）おす！元気ノ？

梶原 ……覚えてる？俺のこと。

瀬田、梶原の手を取って、ゆっくり頷く。

梶原、瀬田の前にひれ伏す。

瀬田、ゆっくりと手を伸ばし、梶原の背中をさする。

梶原、泣いているのか、身体が大きく揺れて声が漏れる。

梶原、立ち上がる。

梶原 ……（冷静に）俺、殺しました、みずえさんのこと。

今村 え？ 何を言い出すの。

梶原 （バットを指して）それ、くれるって言うから。

江口 え？ どういうこと？

梶原 私を殺すって約束したらあげるって。そう言われたから、前に。

黒崎 いや、

梶原 だから、ちょっと押してあげたんだよ。裏の、非常階段のところだ。

江口 ちょっと署の方で詳しく聞いてもいいですか？

梶原 はい。

江口、梶原を連行しようとする。

黒崎 ちょっと待って下さい！ 梶原さんは悪くないです！

江口 え？ どういうことですか？

黒崎 富田さん、いっつも「死にたい、死にたい、殺して！」って言うってばかりいて、

江口 そんなの誰でも言うでしょう？

黒崎 もちろん。でもここではシヤレにならないんです。だって、死ぬためにみんなここに集まってるんですから。

今村 黒崎さん。

九鬼 でも念書をもらってない場合は事情が違いますよね。

黒崎 それは……

梶原 いや、俺、あのバットくれるって言うから……安藤が三冠王取った時のこれ、その時の……

九鬼 わかりました。ちよつと調べますから署にご同行願えますか？ そちらの看護師さんも。

黒崎 私も？

九鬼 もちろん。ここから先は微妙な話になりますから、署の方で伺います。

黒崎 そんな大げさなことじゃ、

今村 私がきちんと説明しますから。

九鬼 人が一人死んでるんです。軽く見ないで下さい。

今村 見てないよ、軽くは。

九鬼 そう聞こえたんで。感覚が麻痺してるのかなって。

今村 そんなわけねえだろう！だって、お前、そうじゃなきや、そうじゃなきや、こんな政府公認の殺し屋みたいなことやってられるか！

黒崎 院長。

ジョージ あちやー。

灰田 すごいこと言ったぞ、今。

今村 ……すみません。…三人で伺います。後のことはそちらにうかがってからお話します。よろしいですか？

江口 ええ、いいでしょう。

今村 他の方はどうぞ朝食の準備を。戸畑さん、お願いします。

戸畑 ……はい。じゃあ、皆さん、行きましょう。

黒崎 ちよっと戸畑さんに簡単な引き継ぎだけ。いいですか？

江口 手短にどうぞ。

保坂、黒崎、橋本、戸畑、瀬田、ジョージ、矢野、津山、上

手奥に去る。

相馬 行かないの？

裕子 ちよつとこの人（清水）に質問が。

相馬 何？

裕子 身辺整理のこと。この人、会計士だったらいいから。

清水 はい。じゃあ、奥さん、（ソファを指して）こちらで。

相馬 ふーん。じゃあ、先行くね。

裕子 うん。

相馬、上手奥に去る。

梶原 先生、俺、どうなっちゃうの。

今村 大丈夫ですよ。梶原さんなりに富田さんのことを思っていたことだから。

裕子 ありがとうございます。

清水 今日から会計士のつもりで。

裕子 すいません。

清水 いえいえ。

今村 (川口に) ということで、後はどうぞお好きに願います。というか、よろしく願います。

川口 いいんですか？

今村 いいも悪いもないです。もうここにいるわけにいきません。

川口 わかりました。よし！ (清水に) 準備して。

清水、ビデオカメラの準備をする。

今村 (準備を見て、笑って) ついに独立宣言ってわけか。あんたたちさあ、ただのファンクラブなわけでしょう？ 何でそこまでやるの？

川口 居場所が欲しいんですかね。

今村 居場所がなければ消えるっていうのがこの国の方針なんだけどね。

川口 あの世に居場所がありますか？

今村 ……どうだろうね。

黒崎、上手奥から登場。

黒崎 お待たせしました。

江口 よろしいですか？

今村 はい。堂々と行こうよ。

黒崎 はい。

今村、黒崎、梶原、江口、九鬼、去る。

裕子、清水に手紙を渡す。

清水 え？

裕子 あの人に渡して下さい。

清水 え？ 今、行くの？

裕子 はい。決心鈍っちゃうんで。財布は持ちました！

清水 ちよっと待って！

裕子 ありがとうございます！ さようなら！

裕子、玄関から去る。

灰田 何？

清水 いや、出て行ってくつて、ここを。

灰田 いきなり？

清水 ああ。

川口 まあ、でも、とにかく、ここは俺たちの場所になった。始めようか。

清水 あいよ。

舞台、暗くなる。

舞台上にスクリーンが張られて、そこに映像が映る。

川口が庭をバックにカメラを向いている。

川口、ポケットから畳んだ原稿を取り出す。

川口 ちょっと失礼して……(原稿を読みながら)この施設はご存じの通り、今まで疑惑の場所でした。しかし、私たちはついにこの地を解放しました。ここは老人たちの「聖地」です。「山に行くな。聖地に行くな」

……今これを観ている孤独な仲間たちよ、ここに集まれ！ 殺されるな！ 生き延びろ！ ここは誰もが祝福される場所、そして、

何やら、画面の見えないところでケンカが始まったようである。聴き取れないぐらいの声で始まり、段々大きくなっている。カメラは川口の不安そうな視線を映し出す。

灰田（声） ……え？ 何？

松尾（声） だから……それが……

灰田（声） ……ちよつ、今更、

松尾（声） いや……無理に……

川口（声） 何？ ちよつと、止めようか。

清水（声） はい。

清水、何かボタンを押したが、ビデオは止まらず、床を映し出している。

川口（声） 何だよ、こんな時に。

灰田（声） いや、こいつがやめるって言い出したから。

松尾（声） （床に這いつくばるような音がして）本当に申し訳ない！

川口（声） やめてよ、そういうの。

松尾（声） 俺は降りる……申し訳ない！

川口（声） 今頃言うなよ。これからって時だろう。

清水（声） 何でなの？

松尾（声） ……やっぱり、家族を捨てられない。甘いんだ、俺。

川口（声） ちょっと待ってくれよ。

沼津（声） まあ、しょうがないでしょう、本人の希望は。

清水（声） あ！

川口（声） 何？

清水（声） スイッチ切れてなかった！

川口（声） え？ 切って、切って。

清水（声） うん。（スイッチを探す）

灰田（声） しーっ！……聞こえない？

川口（声） 何が？

灰田（声） キノコちゃん。

かすかに聞こえる歌声は瀬田の声だろう。

川口（声） 瀬田さん？

灰田（声） これ、完全にキノコちゃんの声だよ。……やばい。

川口（声） ちよつと、とにかく一回止めよう。

暗転。

第一部・完

女、ぬいぐるみ（後に沼津が抱えているものと同じ）を抱えてソファに座っている。

女

（ぬいぐるみに向かっておちやらかほいをやって）おばちゃんの負けー。強いねえ。（次にいないいないばあをやってぬいぐるみがぐずってしまったのか）怖くない、怖くないよ。ここにいるよ。ずっとここにいるからね。いいこ、いいこ……よし、次は何して遊ぶ？……じゃあ、お散歩行こうかね。

女、立ち上がって、スクリーンの裏に消える。

スクリーンにインタビューが流れる。

川口と灰田と目黒が並んでソファに座っている。

川口 まあ、一言で言えば……成り行きです。農業、占い、趣味、健康が軸になって回ってる感じですね。

ナレ 占いってというのが面白いですよ。

川口 確かにね。

灰田 一度体験してもらわないとわからないかもしれないかもしれませんが。

川口 こいつが一番信じてなかったんですけどね。

灰田 そうだっけ？ お前だろう？

川口 いや、俺は老眼鏡見つけてもらったしよ。

ナレ (進行して) 自給自足とうたってますけど、身体はもちますか？

川口 それは大丈夫。目黒さんがいるから。

目黒 あ、目黒です。医者です。まだ新参者です。

ナレ 長生きの秘訣は？

目黒 ー、死なないこと、かな？

ナレ なるほど。「自分で自分を消さないください。あなたの席はここにありません。」この川口さんの言葉がどれだけの人たちに伝わっているのでしょうか？ 今後の活動を見続けていきたいと思えました。(派手な音楽が流れて別のナレで) さーて！ 続いてはラーメン特集。新激戦区はどこだ？ お腹を空かせてレッツ！ ゴ……

映像、途中でカットされて。

一部の終わりから三ヶ月ほど経っている。

矢野、ジョージを写真に撮っている。

庭に、沼津、保坂、津山、戸畑がいる。

沼津が茶碗を持って陶芸についての説明をしている。

ジョージ (ポーズを取って) こう？

矢野 違う。

ジョージ じゃあ、こう？ (ソファに寝そべったりする)

矢野 もっと自然にさせて。

ジョージ してるつもりなんだけど。

矢野 じゃあ、あっち (沼津たちの方) 見てて。

ジョージ (笑って) あいつら。楽しそうじゃないか。(何となく格好つけてしま
う)

矢野 だから、すぐポーズ取る。

ジョージ 自然って難しいな。…今日は畑は？

矢野 休み、あたしは。

ジョージ 俺は午後から。明日の手打ちそば教室は出る？

矢野 わかんない。何で？

ジョージ 矢野ちゃんが出るなら出ようかなって。

矢野 ストーカーだよ、本当に。

ジョージ 出る？出ない？どっち？

矢野 明日のことは明日決める。

ジョージ 了解。でも矢野ちゃんがカメラ始めるとはね。

矢野 暇つぶしだけどね、死ぬまでの。

ジョージ いいよ、それで。そば打ったって、何やったって結局はくたばるわけだから。

矢野 :でも、それでも昨日よりは今日、今日よりは明日、いい写真が撮れるようにって思ってるんだよね。バカにするかもしれないけど。

ジョージ もちろん。今俺、モデルになってて本当嬉しいもん。

矢野 調子いいよね。

ジョージ 本当だって。

川口、真木、和美、児玉、上手階段から登場。

川口 こちらのフロアが共有スペースです。軽く農作業や屋内作業をした後は、ここでみんな好き勝手なことをして過ごします。(ジョージ、矢野に) ちょっといいですか？

矢野 (没頭していたことを気付かされて恥じるように) あ、はい、どうぞ！

川口 すみません。

和美 こちらこそすみません。カメラお好きなんですか？

矢野 ……ええ、まあ。

和美 良かった。私も今凝ってまして。(真木に) 趣味合う人がいたわよ。

真木 そうだねえ。どうも、真木邦雄と申します。こちら妻の和美です。

和美 どうも。

児玉 児玉です。

矢野 矢野です。

ジョージ どうも。山田です。

川口 真木夫妻と児玉さんは今日からここで暮らします。どうぞ、よろしく。

真木 第二の人生を始めるつもりで参りました。どうぞよろしくお願いま

す。

和美 早速皆で集合写真撮りましょうよ。(真木に) パパ、お願い。
児玉 あ、私、撮ります。
和美 いい、いい、入って！

和美、真木にコンパクトデジタルカメラを渡す。

真木 はいよ。

ジョージ 僕が撮りますよ。

真木 いえいえ、どうぞ入って。

ジョージ 僕、カメラマンだったんで。

和美 え？ そうなんですか？

ジョージ はい。だから、彼女(矢野)は僕の今の生徒。……もう少し寄ってください。

和美 じゃあ、私も教えてもらおうかしら？

真木 そうしてもらいなよ。

ジョージ ヌード専門ですけど、いいですか？

和美 えー！

ジョージ (和美にカメラを近づけて) 全部脱ぎ捨ててもらいます。

和美 え？ あ……そ、そう。

真木 (冗談と取っていいのかわからないような笑顔で) いや……

和美 まあ……ちよつと遠慮して。

ジョージ はい！

ジョージ、シャッターを押して、カメラを和美に返す。

ジョージ 良かった。安心しました。僕も妥協したくないので。……ちよつと失礼して、トイレに。

ジョージ、上手奥に去る。

矢野 すいません。初対面の人に何か印象づけたいところあるみたいで。

和美 いえいえ、面白い方ですね、ヌード専門カメラマンって。

矢野 あれ、ウソですよ。

真木・和美 え？

矢野 全然。サラリーマンを定年まで勤め上げたみたいです。

真木 へえ、見えないなあ。

和美 老人ホームデビューって言うんでしょう？

川口 何ですか？ それ。

和美 今までの自分と違う自分をアピールするっていう。

児玉 私もチャンスあるかしら？

矢野 え？

児玉 恋人募集中です！

目黒、上手奥から登場。

和美 (自分のカメラをチェックして) あ！ 本当。ブレブレ！ これ

オートフォーカスなのに。

矢野 適当なんです。そのへんは。

川口 色んな人がいますからね。飽きませんよ、ここは。(目黒を指して) こちら、目黒先生です。皆さんの健康を管理します。

目黒 どうも目黒です。真木夫妻に児玉さん。

真木、和美、児玉、口々に挨拶する。

目黒 (三人にカードを渡しながら) これ、「幸福の王子」カードです。

真木 えーと……

目黒 ボランティアで献血と臓器提供をお願いしてまして、提供に応じてスタンプと謝礼を差し上げております。

真木 はあ。

和美 こんなおばあさんのでもいいの？

目黒 はい。ほどよく経験を積んだ先輩のものが、むしろ。

和美 お上手ね。(沼津の方を見て) あちらは？

川口 今、陶芸教室をやってます。あそこで茶碗を持ってるのが講師の沼津さんです。

和美 へー！ やってみたい！

川口 ちよつと行ってみます？

児玉 ええ。

川口、真木、和美、庭に出る。

目黒 あ、すいません。矢野さん、お願いします。

矢野 はい。

目黒 (何かに書き込みをしながら) お菓飲んでますよね。

矢野 はい。

矢野、目黒にカードを渡す。

目黒 体調はどうですか？

矢野 すこぶる健康です。

目黒 わかりました。じゃあ、こちらにどうぞ。

目黒、矢野、上手階段を上り始める。

ジョージ、上手奥から登場。

ジョージ あれ？ 今日なの？

矢野 まずは検査だけ。

ジョージ 何を？

矢野 腎臓と腸を少し。

ジョージ そうか。（矢野の下腹部に頬をつけて）さよなら。

矢野 ジョージさんは？

ジョージ 俺は色々ダメが出たから、まあ皮膚だね、まずは。

矢野 痛そう。

ジョージ いや、痛くなるギリギリの層までしか剥がさないんだって。

矢野 へえ。

目黒 矢野さん、

矢野 はい。

ジョージ 行つてらっしゃい。（カードを取り出して、目黒に）これ、書いたの目黒先生？

目黒 はい。

ジョージ もうちよつとどうにかならないの？ これ、焼き肉みたいだよ。ホルモン、ロース、タン、ハラミって書いてあってもおかしくないよ。

目黒 面白いでしょう？

ジョージ 面白くないよ。何だか皮肉だよね。

目黒 何がですか？

ジョージ だって、「役に立たなかったら生きてちゃいけないんですか？」とか言
つてた連中がまるで正反対のことやってるわけだから。

目黒 必要最小限です。食べるために動物を殺すでしょう？

ジョージ じゃあ、きれい事言うなよってこと。

矢野 行きましょう。

目黒 あ、はい。

矢野、目黒、上手階段から去る。

ジョージ、ソファに寝そべって適当に置いてある雑誌を読む。

南波、掃除用具を持って、上手奥から登場。

ジョージ ねえねえ、なんか面白いことない？

南波 え？……（考えている）

ジョージ いや、なければいいのよ。

南波 あります。

ジョージ なになに？

南波 あの、ほこらあるじゃないですか？

ジョージ うん。流されたところ？

南波 そうそう。あそこ、知ってました？ なんかキリストのお墓らしいですよ。

ジョージ え？ キリストって、あの？

南波 ええ、なんか二千年前にこっそり日本に渡って、あそこで息絶えたらしいんですよ。

ジョージ え？ じゃあ、あの、ゴルゴダの丘で十字架にかけられたのは誰なの？

南波 だから別人だったみたいなんですよね。

ジョージ 誰が言ってるの？ そんなバカなこと。

南波 え？ 下の町の人達は結構。「マリア」って名前がこのへん多かったり、「来栖」さんって人も多いらしいんですよ。

ジョージ 来栖？ バカバかしい！

南波 幽霊も出るって言うじゃないですか？

ジョージ じゃあ、何？ 「来栖」さんは全員キリストの子孫なわけ？

南波 そういうことでしょう。

ジョージ じゃあ、日本人なのかよ、キリストは！

南波 知りませんよ。でも、ほら、あそこが流された時にみんながみずえさ

んの幽霊を見たらしいじゃないですか？

ジョージ ああ、キノコちゃんとかいうやつ？

南波 そうです。

ジョージ だから、何？

南波 はい。その幽霊が今、瀬田さんに移ったって。

ジョージ わけわかんないよ。

南波 だから、キリストとキノコちゃんと瀬田さんを足して、それで……三で

割ればいいのか？あれ？

ジョージ もっとわかんない。

農作業を終えた格好の、瀬田、灰田、清水、庭に登場。

灰田、ビニール袋に入ったキュウリを皆に配る。

そして、庭にいる沼津、保坂、津山、戸畑、川口、真木、和美、児玉を引き連れて中に入る。

南波、掃除用具を持って、下手奥に去る。

瀬田、ソファに座り、灰田に耳打ちする。

灰田と瀬田の動きがどこか儀式っぽく、他の者もそれに引きずられているよう。

灰田 (耳打ちされたことを伝えるように) ……今朝は随分と歩きました。

山の稜線がくつきり見えて気持ちのいい風が吹いてて… (耳打ちされて) 灰田さんが犬のフンを踏みました。

沼津、清水、保坂、津山、笑う。

清水 (笑ってダジャレっぽく) ウンがいいや。

和美 やだ！

灰田 もう拭いたから。

清水 瀬田さん、最高！

瀬田 (身体が縮こまって) ……。

灰田 あ、来た……入った？……入りました？

瀬田 (むにやむにやと口を動かして) ……はい、何? ……呼んだ? 眠いんだキノ、キノコ呼んだの誰キノ?

灰田 あ、すいません。眠いところ。

瀬田 まあ、いいよ。慣れてるキノ、そのへん。

灰田 早速なんですけど、ここにいる保坂さんがちよつと聞きたいことがあるそうです。

瀬田 あー、何キノ?

保坂 あの、だから、妹がどこにいるのかだけ知りたいんですよ。あの嵐の日からずっと行方不明で。面会に来てくれないんです。

瀬田 うー… (むにやむにやと口を動かして、保坂の腹を指す) そこにいるキノ。

保坂 え? ……

清水 何? どういうこと?

保坂 ……やだ。

瀬田 その中にいるキノ!

保坂、下手奥に車イスを走らせて去る。

戸畑 ……今、鳥肌立ちました。

灰田 どういうことですか？

戸畑 いや、あの、実は……保坂さんの妹さんはもう亡くなってるんです。

保坂さんの片方の腎臓は妹さんのものなんですよ。

和美 え、え？ すごーい！

津山 （和美にクレヨンを見せて）あたしもほら！ 見つけてもらったの、

これ。ずっと出てこなかったのに。

灰田 他に誰か聞きたいことある人いる？

児玉 はい！

灰田 あなた、誰ですか？

児玉 児玉と言います。今日からお世話になります。

灰田 はあ。

児玉 あの、私、恋人出来ますかね？

瀬田 無理だキノ。

児玉 え？

瀬田 次。

和美 あのこと……写真撮ってもいいですか？

灰田 あなたたちも今日から？

和美 はい。真木です、（真木と自分を指して）夫婦です。

灰田 わかりました。写真もどうぞ。

和美 やった。（真木を呼んで）あなたも！

真木 あ、ああ、じゃあちよつとお邪魔して。

和美、真木、瀬田の両側に並ぶ。瀬田はアゴに拳を添えて、上目遣いのアイドルっぽい表情になる。灰田が和美のカメラを借りて撮る。

和美 （カメラを返してもらい）ありがとうございました！

真木 これ、どんなトリックなんですか？

灰田 トリックじゃないです。

真木 あ……すいません。

和美 そうよ。バカね。イタコさんみたいなことでしょうか？
ねえ？

灰田 どうでしょうね。私にはわかりません。

瀬田 お腹すいたキノ。

灰田 じゃあ今日はここまで。……どうぞお戻り下さい。

灰田、瀬田の頭に手を載せて撫でるように回す。

瀬田、眠ったようにうつむく。

灰田 今日の昼飯、何ですかね。

灰田、瀬田、上手奥に去る。

津山 (灰田に) 山菜そば！

清水 いいね。

真木 美味しいらしいですね。

清水 手打ちなんでね。

和美 いい、手打ち好き。

津山、清水、真木、和美、兎玉、川口、戸畑、上手奥に去る。

沼津 (ジョージに) 行かないんですか？

ジョージ ああ、矢野ちゃん待ってる。

沼津 あの人決めたいみたいですね。

ジョージ 何を？

沼津 山に行くって。

ジョージ え？ それって……

沼津 そう、今日クスリもらうって。さようならって、さっき言いに来ました。

ジョージ 何だよ？ それ。俺、何にも聞いてない。

沼津 ジョージさんには言いづらかったんじゃないですか？

ジョージ、上手階段から走り去る。

沼津、上手奥に去る。

どこかの道。

史朗、藤川の手を引っ張るようにして登場。

山歩きの途中。

藤川 ちよつと休もう。
史朗 ああ。

史朗、背負っていたリュックから水筒を出して、藤川に渡す。

藤川 ありがとう。(飲む)
史朗 ……わかんないなあ。
藤川 何が？
史朗 何度も言ったけど、どうして同居したくないの？
藤川 ……あの人の世話になりたくない。

史朗 だから、それもわかったから。僕が母さんをお世話するって言ってるの。

藤川 松太郎だって……

史朗 またそれだ！

藤川 またそれじゃないよ。

史朗 宏美だってわざとじゃないんだって。許してよ。たかが金魚だろう？

藤川 たかが金魚って、

史朗 いや、

藤川 松太郎は松太郎だよ。

史朗 うん、でも宏美だって相当心痛めたんだってこともわかってよ。

藤川 どうだかね。「ごめんなさい」って買ってきたのがぬいぐるみだよ。こんな大きい。鯛みたいなの。（手で風船ぐらいの大きさを示す）「今度は死にませんよ」って。どういう神経してるんだか。

史朗 色々考えすぎて、ああなっちゃったんだって。

藤川 じゃあ、仲良くやりなよ、夫婦水入らずで。

史朗 だから、もう！……それで、じゃあ普通の老人ホームでもダメなわけ？

藤川 ダメ。

史朗 何で？

藤川 面倒くさいよ。お遊戯とか人間関係とか。

史朗 その「聖地」とかいうのはそんなにいいの？

藤川 知らないけどね。でも変わりもんばかりが揃ってるみたいだからね。ちようどいいやって。

史朗 ホスピスみたいなものなの？

藤川 どうなんだろうね？ 何でもいいよ。行くなって決めたんだから。(カプセルのネックレスを触って) いざとなればこれがあるし。

史朗 それは最後の手段だよ。

藤川 わかってるよ。でももうお前たちにも相当悪態ついたし、思い残すことはないよ。

史朗 悪態つかれる側にもなってよ。

藤川 それくらい親孝行だと思え。

別の場所で男の短い悲鳴があがる。

藤川と史朗、その悲鳴の方向を見る。

そこには、小宮山、智恵子、水橋がいる。

智恵子 お父さん。もう決めたことでしょうか？

智恵子、小宮山の手を引つ張る。

小宮山 イタイイタイイタイ！ 引つ張るなよ。

智恵子 だって、さつきから全然動こうとしないから。

小宮山 腰が痛いつて言ってるだろう？

智恵子 ウソ！ 行きたくないだけでしょう？（さらに引つ張る）

小宮山 イテテテ！ 違うよ。

智恵子 子供みたいにグジグジ、グジグジして。わかってるんだからね！

水 橋 いや、お義父さん、本当に疲れてるんだと思うよ。

智恵子 そんなことないんだって。肝心なところで怖じ気づいちゃうのよ。

水 橋 まあちよっと休もうよ。

智恵子 さつきから何度も休んでるじゃない。

水 橋 智恵子、俺もちよっと地図を確認したい。な？

智恵子 ……じゃあ、ちよっとだけ。

小宮山 (ポケットを探しながら) アメ玉、どうしたっけ？
智恵子 え？……リュックのポケに入ってるから。

小宮山、自分のリュックを探す。

智恵子 そう、そのティッシュの横、うん。

小宮山、あめ玉をほおぼる。

水 橋 ……すみません。

小宮山 え？

水 橋 本当は僕がお義父さんと替わってもいいんですけどね。

智恵子 だから、それは……

小宮山 いやいや、そんな新婚じゃないの。

水 橋 いや、すぐに僕も。

智恵子 それ、困る。じゃあ、あたしだって。

小宮山 おい！

水 橋 いや、本当に。

小宮山 困るよ。

水 橋 歳は変わらないし。

小宮山 そんな・・・

智恵子 もう！終わり、終わり！ 何か変になっちゃったでしょう？ もう

終わり！

水 橋 すいません。……（地図を見る）

小宮山 腹減ったなあ。

水 橋 登ったところでお昼にしましょうか？ 見晴らしもいいだろうし。

小宮山 ああ。……おにぎりと唐揚げ。そうだよな？ 確か。

智恵子 あと、たくあんとキューリとトマト。

小宮山 おにぎりはシャケと梅干しと昆布だっけ？

智恵子 そう。

小宮山 俵型だよな？

智恵子 うん、そう言われたから。

小宮山 そう。うちはさ、俺が子供の頃はさ、ずっと俵型だったんだよ。おいなりさんみたいにして海苔で全部くるんじやうの。具もさ、金太郎飴

みために長細く入ってるの。具とごはんが最後まで残ってるから得した気分になってね。

智恵子 お母さんもそうやってたんでしょ？

小宮山 そう。俺が教えてな。

智恵子 覚えてる。あたしの遠足の時も最初俵型だったから。でも他の子のおにぎりはみんな三角で、しかも、その時すぐく仲良かった照美ちゃんって子が私のおにぎり見て「なんかおっきいダンゴムシみたいだね」って言うのね、すごい大きい声で。そしたら、それが男の子にも広まって、すぐくみんなにバカにされたんだよ。

水 橋 子供は残酷だね。

智恵子 「ダンゴムシ食べてるぞ、こいつ」とか言われて。結局、泣きながらそれを草むらに投げ捨てたの。それで、次から絶対に三角にして！つてお母さんに泣いて頼んだの覚えてる。

小宮山 へー。今知ったぞ、それ。

智恵子 言えないよ。お父さん、得意気だったし。

小宮山 俵型の方が格が上だったんだよ。お祝いとかはいつもそうだった。

智恵子 時代が違うよ。でもあたし、そう言えば、お父さんと実はあんまり喋

ったことなかったね。

小宮山 そうか？

智恵子 結婚の時だって。

小宮山 あれは俺、隠れてたんだ。あんまり照れくさいから。

智恵子 結局小心者なんだよねえ。あたしも五十過ぎて結婚するとは思わな

ったけど。ほら！ 行くよ！

智恵子、小宮山を引つ張る。

小宮山 ……（立ち上がり、身を乗り出して）ここから落ちたら死ぬよねえ。

智恵子 え？

小宮山 ちよつと、背中押してもらっていいか？

智恵子 何言ってるの？ お弁当食べるんでしょう？ 見晴らしのいいところ
でき。

小宮山 いいよ、もう。満足した。

智恵子 そんな。

小宮山 おにぎりも唐揚げも美味しいだろうなあって思いながら、いつでも手

を伸ばせるぞつて想像しながら逝くのがいいんだよ、きつと。

智恵子 ちよつと待つてよ。

小宮山 いいから！黙つてろ。……（水橋に）雅彦さん、今日はどうもありがとう。借金のことはいくら謝つても謝りきれないけど……

水橋 いえ。

小宮山 相続税だと思つてよ。まあ、保険で半分は払えると思うけど。

水橋 いや……こちらこそ……何て言ったらいいか、というか、まだいいんじゃないですか？

智恵子 お父さん、ちよつと急だよ。まだ話すことあるでしょう？

小宮山 いいから。もらった冊子に書いてあっただろ？本人の意思が優先されるつて。

智恵子 そうだけど……まだ話してないことあるんじゃない？

小宮山 どんなこと？

智恵子 ……そんな、今すぐは出てこないけど。

小宮山 まあいいつて。（水橋に）智恵子をよろしくお願いします。勝ち気なところがありますけど、根は優しい子ですから。

水橋 ……はい。

小宮山 (智恵子に) 元気でな。

智恵子 本当にやるの? ……怖くない?

小宮山 怖いよ、そりゃ。でも、母さんもあっちで待ってるしな。ちよつと我慢すれば大丈夫だろう……ちよつと顔を見せてくれ。

小宮山、智恵子の顔を両手で触る。

小宮山 大きくなったなあ。

智恵子、小宮山に抱きつく。

智恵子 ……ごめんね。

小宮山 …… (智恵子の身体を離そうとするがなかなか離れないので) もう行く!
水橋君!

水橋、智恵子を抱くようにして離す。

小宮山 それじゃあ。

智恵子 どうしても？

小宮山 ああ。もし十秒数えて俺が飛び降りなかったら背中を思いっきり押し
てくれ！

智恵子 無理だよ……

小宮山 そうじゃないと、お前……グジグジするぞ！ 俺は！ せつかくいい
感じで盛りあがってるのに、またグジグジするに決まってる。だから
頼む。俺も本気だ。お前も本気になってくれ。

智恵子 ……わかった。

小宮山 よし！……（身を乗り出して）十、九、八、七、（身体も声も震えが止
まらなくなり）六……

智恵子 大丈夫？

小宮山 （智恵子を見無視して）五、四、三、二、一、（目をつぶって）

藤川 待って、待って！ ストップ！ ストップ！

智恵子、小宮山に抱きついて引き戻そうとする。水橋もそこ
に加わる。三人とも尻餅をつく。三人、呻る。

藤川 こっち！ こっちです！ あの、大丈夫ですか？

史朗 母さん！

智恵子 ……え？ 誰ですか？

藤川 あの、通りすがりの者です。だいたいのところ盗み聞きさせてもらいました。それでちよつと考えたんですけど、あの……一緒に行きませんか？

智恵子 は？

藤川 行きませんかっていうのは、その、自殺じゃなくて、あの、面白い場所があるんですよ。よくわからないんですけど、ごちゃごちゃと老人が集まって暮らしてる場所が。……これじゃ何の説得力もないかも、もし良かったら一緒に行きませんか？

小宮山 どなたさまかわかりませんが。

藤川 藤川と申します。

小宮山 藤川さんですか。その……お気遣いはありがたいのですが、もう決めたことですので。

藤川 死ぬのはいつでも出来るでしょう？

智恵子 すみません。こちらにはこちらの事情がありますので。

史朗 あ、いえ、すみません。こちらこそ余計なこと言ってしまった。 (藤川に) 母さん、行こう。

藤川 あなた、お父さんの背中押してごらんなさい。一生後悔するわよ。

智恵子 え？

小宮山 いや、

藤川 眠れなくなる、絶対。夢に出る。

智恵子 わかってますよ！ 誰が好きこのんで、

水橋 まあまあ。

藤川 法律が間違ってるんです。年寄り殺すこと、正当化したって何の未来もないですよ。だからね、行きましようよ、一緒に。

水橋 近いんですか？

藤川 はい、多分。

水橋 お義父さん。どうですか？

藤川 散歩のつもりで。

小宮山 ……保険だって、

水橋 いいですよ、そんなの。

藤川 今からそつち行きます。

智恵子 ……

小宮山 気をつけて。足場が悪いから。

藤川 はい。ゆっくり参ります。

藤川、史朗、小宮山たちの近くに行こうとする。

ラジカセから木下小春の曲が聞こえる。それに合わせて踊っている。

川口、清水、真木、和美、津山、保坂、戸畑、矢野、兎玉、橋本、踊っている。名取、杖について座り、黙って見ている。

振り付けのような、エクササイズのような踊りである。

インストラクターは派手なタイツを履いた女性、高橋。

南波、上手階段から掃除用具とバケツを持って、登場。

南波、踊りを見ながら、ロビーの拭き掃除を始める。

皆バラバラだが楽しそう。

ジョージ、下手奥から登場。ソファに座り、つまらなそうに雑誌を読む。立ち上がって、高橋に耳打ちする。

高橋は聞こえないのか、無視する形になる。

ジョージ、ラジカセのスイッチを押して曲を止める。

ジョージ ……死ぬんじゃない？ これ以上続けたら。

高橋 え？……ありがとうございます。(皆に)はい！ オーケー！ じゃあ、今日はここまで！ もう一度しっかり身体をストレッチして、クールダウンして下さいね。

踊りに参加していた者らは各々身体を伸ばしたりする。

矢野、下手奥に去る。

ジョージ、矢野を目で追う。

和美 先生。これ、すつごく、いい。

戸畑 あたしも。お通じが全然違う。

高橋 イエース！ 汗もかきますでしょう？ お肌もね、新陳代謝が良くなつてフレッシュになりますでしょう？

川口 (ジョージに) 話はしたの？

ジョージ 何が。

川口 矢野さんと。

ジョージ ……

川 口 してないのか。

ジョージ うるさいな。避けてんだよ、あっちが。

川 口 弱気だね。

ジョージ ……

農作業を終えた格好の瀬田とビニール袋を持った灰田、上手

奥から登場。

誰からともなく拍手が起こる。

灰田、ビニール袋を戸畑に渡す。

灰 田 ジャガイモ。

戸 畑 ありがとうございます。今日はカレーにします。

瀬田、うつむく。そして、前を向き、目を見開く。

瀬 田 (南波に) あれ? 髪型変えたキノ?

南 波 え? ……あ (灰田を見て)

灰田 (頷く)

南波 ……いや、ちよつとさつぱりしたくて。

瀬田 似合うー。

南波 本当？ キノコちゃんも、元気そうだね。

瀬田 んー、ぼちぼちキノ。

南波 あの、いいですか？

瀬田 何？

南波 息子のことなんですけど…

瀬田 (南波を見つめて) あー、心中するか、ほつぱり出すか。そうしない
とあなた、殺されるよ。

南波 そんな…

瀬田 心中するつもりでほつぱり出せば？

南波 え？…あ、なるほど。ありがとうございます。

瀬田 つまらないキノ。

南波 すいません。

瀬田 ……今日ね、何か、(喉を指して)ここんところにね、引っかかっている
感じキノ。

灰 田 それは食べ物？

瀬 田 んー、違うキノ。これ、言っちゃまずいんだキノ。

灰 田 いいよ。何でも言ってみて。

瀬 田 だって……（急に泣く前のしゃくり上げる感じになる）死ぬかもしれない……誰か。この中の誰かが死ぬかもしれないキノ。

灰 田 大丈夫。怖くないです。みんなそれは覚悟してるからね。少しずつ死ぬことに慣れようとしてるから。ここにいる人たちは。

瀬 田 そうじゃない。……ここはね、もうすぐおしまいだキノ。誰もいなくなつて、忘れられて終わるキノ。

灰 田 それはいつのこと？

瀬 田 （目をつぶって）んー……明日、か、一週間後か、一カ月後か、近いキノ。

灰 田 それはもう避けられないの？

瀬 田 運命だから、無理キノ。

灰 田 対策も？

瀬 田 残念だキノ。

その場にいる者たち、若干動揺する。

真木 それは占いですか？

瀬田 そう。だから従うしかないキノ。以上。

和美 そんな投げやりに言われても……

児玉 まだ来たばかりなのに。

瀬田 何で？ 死ぬ準備をすればいいキノ。

和美 そんな、

瀬田 あ、でも。

児玉 何ですか？

瀬田 いやいや。

清水 言ってください。

瀬田 ……子供を産むキノ。

灰田 子供って。

瀬田 そうすれば助かるキノ。

戸畑 でも……それは、だって……

灰田 ここにいる人達のほとんどはもう子供を産むのはちよつと……

瀬田 そうね。だから無理だつて言ったキノ。

川口 他の方法はないかなあ？

瀬田 ……ない。

高橋 (戸畑に) そういう予定ないの？

戸畑 ないですよ。それにそんな、そのために産むのとか嫌です。

高橋 例えばの話ですよ。(橋本を見て) あなたは？

橋本 ありえません。

高橋 そんな。

橋本 興味ないです。

瀬田 あー、眠くなってきたキノ。

灰田 (瀬田の頭を撫でながら) じゃあ……寝ましようかね。

瀬田、うつむく。

灰田 今日はここまでですね。

皆、バラバラな方向に去る。

藤川、小宮山、道を歩いている。小宮山は地図を持っている。
二人とも少し息があがっている。

藤川 ここさつき通りましたっけ？

小宮山 (地図を見ながら) いや、通ってないと思いますよ。

藤川 似てるから、道が。

小宮山 ちよっと休みませんか？

藤川 でもあんまり遅くなると、このへん真っ暗になるんじゃないかな。

小宮山 でも、さつきからずっと歩きっぱなしだし。

藤川 確かにね。

小宮山 ええ。

二人、腰掛けて水筒の水を飲んだりする。

小宮山 無事に帰りましたかね、子供たちは。

藤川 大丈夫でしょう。それより私たちの方が心配です。

小宮山 そりゃそうだ。

藤川 意地張って。

小宮山 突っぱねましたからね。

藤川 「ここから先は二人にさせてくれ」って。

小宮山 ちよつと格好つけました。

藤川 格好良かったです。

小宮山 あの際は勢い余ってついね。

藤川 でもいい娘さんたちですね。

小宮山 近くにいるときはうるさいだけです。酒もダメ、タバコもダメ、運動しろ、みんなと仲良くしてって、本当うるさい。

藤川 心配なんですよ。

小宮山 でもねえ、今更生き方変えるのも嫌でね。

藤川 わかります。

小宮山 何を言っても聞いてもらえないし。……いや、そちらこそ、いい息子さんじゃないですか？

藤川 そうなの。自分で言うのもなんですけど、いい子なんですよ。いい子

過ぎて困ってて。

小宮山 贅沢だなあ。

藤川 いえ、大変ですよ。こっちが悪者にならないと、ちゃんとしないうです。だから私、いっつも悪態ついて。お嫁さんにも嫌われてるの。

小宮山 大変だね。

藤川 大変です。

沈黙。

小宮山 どんな所なんですかね。

藤川 え？

小宮山 聖地って。

藤川 さあ。案外つまらないかも。

小宮山 「聖地」って、名前？

藤川 いえ、そういう理想の場所って意味だと思います。

小宮山 そんな場所があるのかねえ。

藤川 ええ。

小宮山、おそろおそろ藤川の手を握る。

小宮山 ……冷たいですね。

藤川 ……ええ。冷え性なんで。……あったかい。

小宮山 体温高いんです。

藤川 ……はい……

小宮山 ……（突然手を離して、自分の胸をなでおろすようにして）
血圧も高いんです。

藤川 はあ。

橋本、携帯ゲーム機で遊んでいる。

津山、スケッチブックに絵を描いている。

児玉は化粧をしている。

高橋はストレッチをしている。

しばらくして、相馬が下手奥から登場し、そのまま玄関に去る。

高橋 何だろう？

児玉 風みたい、ぴゅーって。

高橋 ダンスにも参加しないし。

児玉 色々事情があるみたいよ。

高橋 へえ。ダンスうまいと思うけどね、あの人。いいステップ踏むもん。

児玉 どうかしらね。結構好みなんだけどね。

高橋 ダンスに誘ってみたら？

児玉　　そういう積極的なのは案外ダメだと思ふな。

高橋　　そうかなあ？

津山　　出来た！

津山、橋本に絵を見せる。

橋本　　どれ？……（絵を見て）これ、何？

津山　　胃。胃袋。

橋本　　えーと、これが、じゃあ、ストマツ君。

津山　　ストマツ君。

橋本　　はい、じゃあ次、腸を描いて。

津山　　うん。名前は？

橋本　　え？ 腸……チョウ、チョウ助。

津山　　チョウ助ね。

相馬、玄関からゆっくり戻ってくる。

児玉 あれ？

相馬 何ですか？

児玉 散歩に行ったのかと思った。

相馬 そんな気分じゃないですから。

児玉 そうですか。

高橋 じゃあ、あたしは一眠りしてくる。

児玉 うん。

高橋 (ジエスチャーで「頑張つて」と励ます)

児玉 (ジエスチャーで「オッケー!」と答える)

高橋、下手奥に去る。

相馬、お腹を触っている。

児玉 (相馬に) 大丈夫ですか？

相馬 ……ええ。

児玉 一度診てもらった方がいいんじゃないですか？

相馬 ……そうですね。

児玉 わかります。ついね、先延ばしにしちゃうんですよね。白内障だったとき、そうでした。目をいじるなんて怖くてね。

相馬 ……ええ。

児玉 でも病院に行ったら、何かあれよあれよと手術になって治っちゃいましたけど。

相馬 治りませんから、僕は。

児玉 え？

相馬 余命二年です。

児玉 それは…ごめんなさい。

相馬 いえいえ、それはいいんです。いや、当然なんですけど、死ぬときは独りっていう、そのことをまだ、あんまり、受け止め切れてないっていいいますか…

児玉 それはそうでしょう。…でも立派です。落ち着いてらっしゃる。

相馬 走りませんよ、落ち着いてる人は。

児玉 すいません。でも本当、受け入れてるように見えて、それで。

相馬 何で僕がいつも走って外出るか、知ってます？
児玉 いえ。

相馬 妻が帰ってきた時の予行演習です。真っ先に出て行って、突き倒して、乗っかって殴って、首を絞めるための。それを全部無言でやっています。

児玉 え……大丈夫ですか？

相馬 大丈夫、じゃないでしょうね。

児玉 何か手伝えることありますか？

相馬 あります。今すぐ黙ってください。それだけでいい。余計なお節介はいりません！

児玉 え？ あの、

相馬、下手奥へ去る。

児玉 何なの？ もう。

津山 振られた？

児玉 あんなの、こっちから願い下げよ。

津山 (絵を渡して) これあげる。

児玉 ありがとう。何？ これ？

津山 (児玉を指して) おばちゃん。

児玉 言っておくけど、あんたもおばちゃんだからね。……え？ あたし、
こんなに化粧濃くないわよ。

津山 髭生えてた。

児玉 やだ！ よく見てたわね。

津山 おばちゃん、本当はおじちゃんだよね。

児玉 違うわよ。……だったの、おじちゃんだった。
遠い昔のことよ。

橋本 え？ そうなんですか？

児玉 悪いかよ。

橋本 い、いいえ。

津山 すごーい！

目黒、上手奥から登場。

目黒 皆さん、お集まりで。どうですか？ 献血でも。

児玉 あたし、やろうかな。なんか血が余ってる感じがする。

目黒 どうぞ、どうぞ。橋本さんもどうですか？

橋本 最近、貧血気味なんで。

目黒 頑張っつてよ。あなたが手本を見せないと。

橋本 はい。

目黒 津山さんもいつでも来てね。そろそろ貯金もなくなるからね。わかっ
てる？

津山 わかってるよ。

目黒 次は多分、腎臓あたりだからね。

津山 はい。これ（スケッチブックの絵を破いて）あげる。

目黒 何？ これ。

津山 チョウ助。

橋本 （腹を触って）腸のキャラクターです。

目黒 ありがとう。壁に貼るよ。昼寝もしっかりして下さいね。食べて、寝
て、身体を管理しないとね。

津山、下手奥に去る。

橋本、上手階段に去る。

目黒 本当にならわかってんのかなあ。今月、血も臓器も足りてないんだよなあ。

児玉 あたし、ここ向いてないのかなあ。

目黒 そんなことないですよ。どうですか？腎臓あたり、提供してみませんか？

児玉 それどころじゃないの。

目黒 最近の人工臓器は性能いいですよ。

児玉 自分のでいい。

目黒 そこを何とか。天然物は困ってる誰かに提供しましょうよ。困ってる人には身を削って奉仕しようっていう精神で始まったんですから、元々。

児玉 いやよ。ただでさえ改造してるのに、これ以上どうしろっていうの。

目黒 はいはい。私はね、ツバメなんですよ。ツバメ。でもそうじゃない。：：
本当はね、私、幸福の王子の使いとして臓器を配るツバメ役のつもりだったんですよ。それがいつの間にか、ただのブローカーみたいになっ
ってね。

児玉 (いきなり大きいため息をついて) あーあ。

目黒 何？

児玉 相馬のバカに振られた。

目黒 ご愁傷様。

児玉 慰めてよ。

目黒 血を抜けばすつきりしますよ。

児玉 バカ。

目黒、児玉、上手奥に去る。

しばらくして、市川、荒木、小谷、玄関から登場。

荒木 あいてる。

市川 ごめんください。

荒木 いないや。

小谷 いないことはないでしょう。

市川 ここ、入口だよな？

小谷 うん、ここからしか入れないから。

荒木 あー、疲れた。(座ろうとする)

市川 ちよつと待つてよ。

荒木 どうして？ もうくたくたよ。

市川 だって、勝手に入って、勝手に座って。

小谷 そうだよ。油断しない方がいいって。

戸畑、上手奥から登場。

戸畑 (市川たちを見て) キヤ！

市川・荒木 ワ！

小谷 何？ 脅かさないでよ。

戸畑 え！ そっちこそ……どなたですか？

市川 え？……いやいや、あの、近所の者よ。

戸畑 近所？ 街の方ですか？

荒木 そっちじゃないの。元、のほう。

小谷 元々このへんに住んでたんですよ。

戸畑 ああ。

市川 私、元村長。こんなよれよれでも一応ね。

戸畑 あ、どうも。

荒木 (自己紹介しようとして手を指して) 市川さんに、えー、小谷さんに、私、荒木と言います。

戸畑 戸畑です。ここのヘルパーをしています。その、今日はどういった御用で……

市川 まあ、つまり……あなたはこちらに来て長いんですか？

戸畑 え？……二ヶ月ほどです。

市川 そうですか。私たちは三年前にこの村を出て行くまで、六十年ほどこちらに住んでいました。

戸畑 ああ、ダムの立ち退きの時ですか？

市川 そうです、そうです。

荒木 私も夫と一緒に、向こうの、窪地に住んでました。夫が亡くなってからも一人でいたんですけど、段々不便になりましたね、身体が。息子も一緒に住もうって言うもんだから、それから、東京にいたんです。私はもう若いときからこの村を出てしまっって、ずっと遠くを転々としていたんですけど、最近急にここが懐かしくなっって。

戸畑 そうですか。

市川 それでね、今日こちらに伺ったのはね、早い話、つまり、ここを、このあたりを好き勝手にいじり回すのはやめてくれってことなんですよ。

戸畑 好き勝手ではないですよ。

市川 ああ、それは……

荒木 言い過ぎですけど、でも、私たち、騙されてここを追い出されたんですよ。「ダム作ります！」って言われて。だから今、その、元いた所を取り戻したいっていう、それだけなんですけどね。

小谷 そう、それだけ。

戸畑 つまり、入居希望ということですか？

市川 いやいや、まあそうなんだけど。

荒木 (市川に) 違うでしょう。土地を返してもらいたいんですよ。

戸畑 え？

市川 まあ、だから、入居というか、土地をもらえないかなあと。

戸畑 それはちよつと……

荒木 あなたたちは老人の味方でしょう？

戸畑 決められません。私一人では。

荒木 私たち、もう一度ここでひっそりと暮らしたいと思ってるんです。

戸畑 私どもの敷地以外でしたら、どうぞご自由に。
小谷 違うでしょう？ 元々私たちの土地なんです！ 騙されたんです！
市川 まあまあ。歳を取ると生まれたところから離れたくないんです。
荒木 歴史があるんですよね、私たちには。ここで過ごしたっていう。

名取、杖をついて、下手奥から登場。

小谷 ナトちゃん。

市川 え？ 名取？

名取 庭歩き回ってるのが見えたから。

戸畑 え？ 名取さんのお知り合い？

名取 まあ。何してんの？

市川 ああ……いや、

荒木 わー、久しぶり。

小谷 久しぶり。

荒木 帰ってこようかなって。やっぱり、ここが自分たちの居場所だっと思
つてさ。

名取 ……ウソだ。

市川 え？ 何で？……ウソじゃないよ。

荒木 離れてみるとわかるんだって。

名取 離れなかった私にはわからないってこと？

荒木 そうじゃないよ。

市川 やめようよ。

小谷 うん。

名取 帰れ。

市川 ちよつと、

荒木 久しぶりに会ってそれはないでしょう？

市川 みんなそれぞれ事情があったんだから。

名取 事情ね。

市川 そうだよ。

名取 金だろ？

荒木 何でそんなこと言うの。

小谷 だから、こっちは恥をしのんで帰ってきてるんでしょ？ それを頭

ごなしに！

市川 みんな家族がいたりとかあつてよ。

小谷 あんたは家族いなかったから。

名取 ……

小谷 ……ごめん。

目黒、思いつめた表情の矢野、上手奥から登場。

目黒、少し矢野を見守った後、上手奥に去る。

戸畑 (矢野に) 大丈夫？

矢野 はい。

戸畑 ちよつと待ってて。

矢野 あ……はい。

戸畑、下手奥に去る。

名取 まあ、わかったよ。

市川 本当か？……

名 取 あたしが出て行く。

小 谷 どうしてそうやって意地悪言うの！

名 取 お前らのおかげで踏ん切りがついた。あたしは「山に行く」。

荒 木 え？ ちょっと待ってよ。せつかく会えたのに。

小 谷 ひどいじゃない。積もる話もあるでしょう？

名 取 ないよ。あたしは別にこの場所に誰が来ても構わないと思ってるけどね、ここを捨てた奴は別だよ。絶対に許せない。

小 谷 どうしてよ。

名 取 都合がいいからだよ。一度捨てて、評判になったらまた戻って来るなんて奴は信用できないよ。ここは誰かが色々言う前から聖地なんだよ。試されたんだ、あたしたちは。

市 川 名取、お前もしかして、クリスチャンだった？

名 取 いや、何でだ？

市 川 今の言い方がそれっぽくなって。いや、今、街ではさ、ここにキリストの墓があったって話で盛りあがってるのよ。

荒 木 隠れキリシタンとかでもなくて、キリストの墓そのもの。

名 取 くだらない。

市川 ほら……でも俺ら、両手の平に十字描いて、こう合わせて（指を組む）
寝ると、悪夢を見なくなるっておまじないあったろ？

小谷 あった、あった。

市川 ひよっとしたら、ひよっとするんじゃねえかなあつてさ。

名取 何が？

市川 いや、もう一度村を復興できるんじゃねえかなあつて。あの、キリス
トの墓、目玉にしてよ。

名取 帰れ！

名取、下手奥に去る。

小谷 ナトちゃんってあんな頑固だったっけ？

市川 英雄気取りだな。

ジョージ、下手奥から登場。

ジョージ ……おす。

矢野 ……

ジョージ 矢野ちゃん！……俺と……結婚してくれ！

矢野 え？

ジョージ ……ここは元々結婚式場だろう？ ここで式を挙げようよ。二人で歩こうよ、（床を指して）ここからあそこまで。

矢野 ……どうしてそんな意地悪言うの？

ジョージ 本気だよ。

矢野 その方がよっぽど悪質よ。

ジョージ どうして？

矢野 だって、私、「山に行く」んだよ。もう決めたの。今がプラスマイナスゼロな感じなの。ここで終わればちようどいいの。

ジョージ （カツラを取って）見ろ！ いいから、見ろ！

矢野 見てるわよ！

ジョージ これ（カツラ）を、（踏みつけて）こうしてこうしてこうしてやる！

矢野 何なの？

ジョージ ……被ってたら失礼かと思つて……一緒になろう。

矢野、ジョージに近づく。

矢野 ……私、ガンなの。

沈黙。

ジョージ それがどうしたの？ 結婚しよう。

矢野 (ジョージのハゲを撫でて) ……よろしくお願いします。

矢野、ジョージと抱き合う。

市川、荒木、小谷、何となく拍手する。

清水、沼津、玄関から登場。

清水は大きな布の包みを持っている。

沼津は中ぐらいのぬいぐるみ(中にレコーダーが入っているもの)を抱えている。

ジョージ 俺、結婚することになったよ。

清水
沼津
（心ここにあらずな感じで）おめでどう。
おめでどうございます。

清水、沼津、早足で下手奥に去る。

夜。おそらく道ばたであろう。ランタンの灯りがついている。
藤川、小宮山、それぞれお互いの寝袋にくるまっている。

小宮山 藤川さん？

藤川 ……

小宮山 寝ました？

藤川 いえ、起きてます。

小宮山 大丈夫ですか？

藤川 ちよつと寒いです。

小宮山 それはいけない。

小宮山、カバンの上にある上着を藤川の寝袋にかける。

藤川 ありがとうございます。大丈夫です。……ごめんなさい。

小宮山 何で謝るの？

藤川 きちんと案内できなくて。

小宮山 とんでもないですよ。びっくりしてます。

藤川 びっくり？

小宮山 はい。迷子になるのがこんなに楽しいものなんだって。ちよっと自分でも信じられないくらい、はい。だから、眠れないんですかね？

藤川 そのうちそんな悠長なこと言ってられなくなるんでしょうけど。

小宮山 朝、ゴミを捨てに行くでしょう？

藤川 え？

小宮山 前住んでたところ。

藤川 ああ。

小宮山 ゴミ捨て場がわかんなくなりました。自分では昨日と同じ場所に捨てに来たはずなのに、そこにゴミ捨て場がないんです。呆然と立ちつくしちゃってね。ショックで。

藤川 わかります。

小宮山 いや、その後すぐ見つかったんです。ゴミ捨て場は。目印を間違えてただけで。でも、そのショックは抜けなくてね。ぐったりしちゃった。ついに来たかって感じ。いつか家に帰る道もわからなくなるんじゃないやな

いかって、外に出る気もなくなつて。

藤川 はい。

小宮山 でも、今楽しいんです。どこまでも迷っていたい気分です。

藤川 そのうちお腹が空いてそんなこと言つてられなくなりますよ。

小宮山 かもしれませぬ。……ちよつといいですか？

藤川 何でしょう？

小宮山 ちよつとそつちに行つてもいいですか？

藤川 どういうこと？

小宮山、藤川の寝袋に近づく。

小宮山 暖めます。失礼します。

小宮山、自分の寝袋を藤川にこすりつけるようにする。

藤川 おしくらまんじゅうみたい。

藤川、小宮山を押し返すようにする。

二人とも寝袋に入ったまま転がったりじゃれ合ったりする。

どちらともなく、笑い出してしまふ。

「イチ、ニ、イチ、ニ」と掛け声をかけながら、一列になつて、三島、阿部、遠藤、丸山、登場。

藤川と小宮山、慌てて離れる。

三島 (いきなり止まって) 誰?

阿部 (三島にぶつかって) イテ!

遠藤 おっと!

丸山 何?

阿部 いきなり止まらないで。

三島 (藤川と小宮山の方に向かって) 誰かいますか?

藤川 は、はい。

小宮山 (手を振って) こっちです、こっち。

三島 今行きます。行くぞ。

阿部 おう!

三島、阿部、遠藤、丸山、再び「イチ、ニ、イチ、ニ」と掛
け声をかけながら、藤川と小宮山の近くに行く。

小宮山 取りあえず出てましようか。

藤川 そうですね。

小宮山 見られましたかね？

藤川 どうでしょう？ ちょっとはしゃいじやいましたね。

小宮山 はい。でも楽しかった。

藤川 ええ。

小宮山 今のは内緒で。

藤川 はい。

小宮山、藤川、寝袋から出る。

三島 (ランタンをかざすようにして) 大丈夫ですか？

小宮山 (どこか後ろめたい感じで) はい、大丈夫です。

三島 そちらの方も？

藤川 (同じく後ろめたいように) はい。

三島 良かった。

丸山 野宿されてたんですか？

小宮山 いえ、まあ……ちよつと迷ってしまいました。

遠藤 ここは迷うんですよ。

藤川 ああ……

阿部 違うでしょ。あんたら、あれでしょう？ 心中しようとしてたんでし
よう？

小宮山 え？

遠藤 (阿部を制するように) ちよつと。

阿部 お邪魔しちゃったんじゃないの？ 私たち。

三島 そうなんですか？

小宮山 いや、そんなつもりじゃ。

藤川 私たち、聖地に向かっていたんです。

遠藤 (阿部に) ほら。

藤川 でも途中で道がわからなくなつて……

丸山 ちょうど良かった。同じです、私たちも。

遠藤 さつき会ったばかりなの、私たちも。

丸山 (阿部を指して) この人はさつき、あっちで。

阿部 はい、私、死のうとしてました。すいません。失礼なこと言って。

小宮山 いえいえ。

三島 「山に行く」ってなると、ここを選ぶ人が多いみたいですよ。そんなに急な山じゃないしね。

小宮山 あの、(阿部を指して) 本当はおっしゃる通りです。……あ、でも心中じゃなくて、私一人で。

阿部 (遠藤に) ほら。

遠藤 大人はそう思っても言わないの。

小宮山 でも、この人(藤川)に励まされて、聖地に行ってみようって。

阿部 同じよ、こっちも。この人たちに会って、説得されて。だって、聞けばこの人たちも訳ありらしくてね。

丸山 前はやっぱり山に行くつもりでね。でも「聖地」が近くにあるらしいぞって聞いて。

三島 モルヒネと毒薬持って、みんなで行ってみようって。

遠藤 そしたら楽しくてしょうがなくなつて。

阿部 この人たちひどいよ。私が自殺しようと思つて言つたら、大笑いしてさ。

丸山 ごめんなさいね。でもおかしくてね。

三島 そう。モルヒネが効いてるからかわかんないんだけど。

阿部 「死ぬのなんか簡単なんだから、ちよつとその前に散歩しましょう。」
つて言われてほいほいついてきてるわけ。

小宮山 この人（藤川）に同じこと言われました。

三島 だから、もし良かったら一緒に行きませんか？

藤川 （小宮山と顔を合わせて）……ええ。

小宮山 はい。

丸山 じゃあ、列に入ってください。

小宮山、藤川、三島たちの列に加わる。

三島 歩き方はこうです。前の人の足跡を踏むようにしてゆっくり歩いていきます。こうすれば山道も疲れないで歩けます。……じゃあ、行きま

すよ。右足から。せーの、

全員、「イチ、ニ、イチ、ニ」と言いながら去る。

ジョージ、矢野、二人で手を繋ぎ、ステンドグラスの下まで歩いてくる。そして、説教台に立つ瀬田の前で立ち止まる。

ジョージはカツラを被っていない。

真木、和美、沼津、川口以外の現在入居しているメンバーとスタッフ全員、揃っている。

庭に、市川、荒木、小谷がいる。大きめの紙に「私たちの故郷を返せ」「臓器売買反対」という文字を書いて三人で持っている。

瀬田、杖を二人の頭にかざす。

瀬田は灰田の支えがないとなかなか立ってられないほど衰弱が激しい。

瀬田、灰田の耳に何かをささやく。

灰田 (瀬田に言われたことを伝えるように) 永遠の愛を誓いますか？
ジョージ 誓います。

灰田 (矢野に) 永遠の愛を誓いますか？

矢野 誓います。

灰田 では、誓いのキスを。

矢野、ジョージの頭頂部にキスをする。
皆、拍手をする。

瀬田 (一度うつむいてから顔をあげて) ……おめでとうキノ！

矢野 ありがとう。

瀬田 ジョージ、やったね！

ジョージ やったよ。

瀬田 その髪型もいいキノ。風通しがいいキノ。

ジョージ (頭頂部を撫でて) まだ慣れないけど。

瀬田 いい、いい！……えい！

瀬田、いきなり杖を投げる。

ジョージ え？

灰田 いかがでしょう？

瀬田 ……南西の方角より待ち人来たる。災い転じて福となす……人間万事

……

灰田、瀬田に耳打ちする。

瀬田 ……馬……馬の……

灰田、再び耳打ちする。

瀬田 仏の……面に蜂……蜂の面にも……面、面、全く……どいつもこいつも
アホ面さげて……

参加者一同、少し動揺する。

灰田 キノコちゃん。

瀬田 (ジョージに) 調子に乗るな、このハゲ！その女(矢野)もよく聞

けよ。：・あたしの方がずつとずつともてるんだからな！

ジョージ (瀬田に) 大丈夫か？あんた。

灰田 …… (瀬田の背中を軽く叩く)

瀬田 (反射的に) さあ、どなたか私のベイビーをここへ。

清水、上手奥から登場。手には赤ん坊を抱いている。

清水 (芝居がかった感じで) この方でございませうか。

瀬田 おお！ 汝、白き真綿に包まれ、空に眠る天使のごとく、(瀬田に戻っ

て) あれ？ 忘れちゃった。何だっけ？

ジョージ、笑う。それを灰田が睨む。

瀬田 杖を。

灰田、杖を瀬田に渡す。

灰田 こちらの杖はほこらの一部で作られており、秘められたパワーを持っています。

瀬田 この子は（ジョージたちを指して）あなた方を祝福するために訪れたキノ。（杖を赤ん坊にかざして）……ん？ どうしたキノ？

赤ん坊が泣き出す。

瀬田 お腹空いた？……おっぱい欲しいキノ？ わかったわかった。終わらだキノ。おっぱいあげるキノ。

瀬田、清水、下手奥に去る。

ジョージ おっぱいって誰の？

灰田 キノコ様の。

ジョージ 出るのかよ。

灰田 奇跡は起こります。

ジョージ 本当か？

灰田 昨日から胸が張って、張って、しょうがないということです。

児玉 瀬田さんも大変。え？ あ、今はキノコさん？ どっち？

高橋 さあ。

灰田 (児玉を睨む)

児玉 あ、すいません。

目黒、矢野とジョージに近づく。

目黒 いや、二人ともおめでとうございます。

矢野 ありがとうございます。

目黒 無事結ばれて良かったです。

市川、荒木、小谷、強引に玄関から入ろうとする。しかし、橋本がそれを止める。小谷はビデオカメラを構えている。

市川 (玄関の外から) ちよつと、ちよつと！ 目黒先生。

目黒 今は式の途中だから。

市川 臓器売買してるって本当ですか？

目黒 献体です。本人の同意の下に提供していただいています。

市川 ウソつかないでくださいよ！ 費用が払えない人達は強制されてるでしょう？

目黒 いいえ。本人の意思を尊重しています。

荒木 どう思ってるんですか？ 臓器売りさばいているってこと。

目黒 私はリサイクル業者だと思ってますけど。

市川 へー。つまり、ここの皆さんは内臓を切り売りして暮らしてるんですね？

目黒 献体です。

市川 正真正銘の売買だよ！

目黒 その考え方こそ手垢にまみれてますよ。循環してるんです。旅の終わりが近づいたら、肩の荷物を少しずつ降ろして、それをまた誰かが使えばいいんです。

荒木 早く死ねってことじゃない、それは。
目黒 いや、だから、

真木、和美、沼津、上手奥から登場。

和美 みなさん！ どうぞお食事の準備が整いました。
どうぞこちらのレストランへいらして下さい！

沼津、目黒、市川、荒木、小谷、以外の者、
上手奥に去る。

小谷 あっち回ろう！
市川 ああ。

市川、荒木、小谷、玄関から去る。

目黒 (市川たちを見て) せわしない人達だなあ。ちよつと視点を变えるだ

けなのに。……（沼津に）大丈夫ですか？ 糖尿の方は。

沼津 はい。相棒みたいなもんですから。それより、瀬田さんは大丈夫なんですか？

目黒 何とも言えませんね。

沼津 私にできることがあればと思うんですけどね。

目黒 （自分の頭を指して）この移植はできないからね、今のところ。

沼津 変な話ですけど、あれってどのくらい瀬田さんでどのくらいキノコちやんなんですか？

目黒 どっちとも言えないですね。重なり合ってるというか。

沼津 はあ。

目黒 瀬田さんであり、キノコであるという。

沼津 なるほど。彼女、僕に言うんですよ。あなたが一番私のことわかってるって。だから、なるべくそばにいたいと思ってるんですけど、そうもいわずに。

目黒 その時、どっちでした？

沼津 え？あ……わからないです。

保坂、上手奥から登場。

目黒 どうしました？

保坂 いえ、妹がまだね、来ないもんだから。ちよつと様子を見にね。

目黒 早く着くといいですね。

保坂 本当に。

沼津 (考え事をしながら) それじゃ、私は。

沼津、上手奥に去る。

目黒 ごちそうでしたか？

保坂 うん。でも私、妹が来てからいただくこうと思って。

目黒 私、見てますから。どうぞ食べてきて下さい。たくさん食べて、献血
して下さいよ。来たら呼びます。

保坂 そうですか？…あ！ 来た。

目黒 え？

タキシード姿の川口、両手に買い出しの荷物を抱えて、玄関から登場。落ち着かない様子である。

保坂 何だ。

目黒 お帰りなさい。

川口 灰田たちは？

目黒 部屋の方に。何かあったんですか？

川口 下の街は大騒ぎだよ。赤ん坊が誘拐されたって。市立病院から老人二人組が連れてったって。

目黒 養子じゃないんですか？

川口 違うよ。おかしいと思ってたんだ。

川口、下手奥に去る。目黒も後を追う。保坂、玄関をいつまでも見つめる。

三島、阿部、遠藤、丸山、藤川、小宮山、一列に並んで山を登っている。木下小春の歌を歌っている。

②ねえあなた 気付いてる？ 昨日指を切ったの 包丁で

手料理食べたいつて あなたが言うから

星を頼りに 会いに来て欲しい

いつも ずっと 想いは一つ

まぶたの裏の マイ・ダーリン

藤川 全然、知らない。こんな歌。

丸山 巡礼歌なんだって。

三島 そうそう。聖地にお参りするときに歌うんだって。うちらも最近覚え
たの。

藤川 有名な歌手ですか？

遠藤 じゃないの？ あたしも知らなかったけど。

阿部 知ってる。この曲しか知らないけど。一発屋だったからね。

皆、笑う。

そして、また歌いながら歩く。

③ねえ？ あなた 私のあなた

約束してくれたよね、いつかここから

連れ出してくれるって……（途中まで）

川口、下手奥から登場し、玄関から外に出ようとする。
追うように、清水、灰田、瀬田、下手奥から登場。

沼津、説教台で雑誌を読んでいる。

清水 おい！

川口 話にならない。

清水 沼津、止めてくれ！

沼津、説教台を降りて、川口の前に立つ。

川口 どいてくれ。

沼津 何があつた？

上手奥から、たまに笑い声や拍手、木下小春の歌などが漏れてくる。楽しいパーティーが続いている様子。

川口、上手を気にしながら、ふと立ち止まる。

川口 (沼津に) 自首する。

沼津 え？

清水 何でだよ。ちゃんと調べたんだって。この子には身寄りがない。

川口 理由になってない。

清水 養子にするのも難しいだろ？俺たちはこの先長くないし。

川口 だったら、さらうのか？

清水 隠せばいいよ、しばらく。絶対ばれないって。

川口 瀬田さん。あなた、本当にこんなことしたいの？

瀬田 はい？……呼んだ？

川口 瀬田さん、あなたは瀬田さんですか？

瀬田 はい、お乳が張って困ります。

灰田 混乱させないでくれ。

川口 (灰田に) お前が仕立てあげてるだけじゃないかよ。

灰田 俺が？まさか。

清水 全部覚えてるんだから。いつのコンサートの転んだとか、歌詞を間違

えたとか、

川口 当然だろ？ 瀬田さんはキノコちゃんが一番仲が良かったんだから。

(瀬田に) もう終わり。ほら、もうあなたの出番は終わりだから。

沼津 落ち着いて下さいよ。

川口 落ち着いてられるか！

瀬田 まあまあ。

川口 ふざけてんの？ 瀬田さん。あなた、自分が子供欲しかっただけじゃない？ だから、今こんなことしてるんだよね。

灰田 それは侮辱だよ。

川口 お前らの方が侮辱だよ。

清水 人のせいにするなよ。

川口 いや、すまん、俺だって悪いよ。だから、本当、自首しようって。(瀬田に) ね？

瀬田 キノコ、この人嫌い！ あっち行ってキノ！

清水、川口の肩を叩く。

清水 何、守りに入ってるんだよ。

川口 これじゃただのカルト集団だよ。

清水 目先のことだけ考えるな。

川口 どっちがだよ。

清水 お前だよ。未来を考えろ。

川口 これのどこが未来だよ！

清水 キノコちゃんの次だよ。次のキノコちゃん。

川口 次？

清水 ああ。キノコちゃんの二世、三世だよ。わかるか？

川口 ……

灰田 器を取り替えないと。肉体は滅ぶから。

清水 それでこの王国が続いていくんだよ。

川口 ……とにかく、子供は返そう。

清水 無理だって、もう。

川口 冷静になれって！ 頭おかしいぞ！

清水 そっちこそ。

灰田 最小限の犠牲だよ。今のキノコちゃんがいなくなったらどうする？

俺たちじゃ引つ張れない。

川口 でっちあげか？

灰田 ぬるいよ、お前は。希望だよ、あの子は。希望がリレーしていかなきゃ、たちまち腐るぞ、ここは。臓器売って好きなことしたって虚しいだけだろう？

川口 「山に行く」ほうがましだよ。

灰田 それは諦めた。俺たちが本気でここを続けていくなら、希望っていう物語が必要なんだよ。

川口 デタラメじゃないか。

灰田 みんなで信じたらデタラメじゃなくなるよ。

川口 そんなこと望んだか？キノコちゃんは。

灰田 望んでるよ、ここにいるキノコちゃんは。

川口 ……わかった。子供は（上手奥を指して）こっちか？
清水 ああ。今気持ちよさそうに寝てる。

川口、上手奥に走り去る。

清水、灰田、後を追う。

上手奥で物が割れたり、倒れたりする。悲鳴も上がる。

沼津 大丈夫。心配しないで。

瀬田 怖いキノ。

沼津 部屋に行こう。

瀬田 うん。

沼津、瀬田を連れて下手奥に去る。

一瞬、静まりかえる。

奥からキノコの歌の合唱が聞こえてくる。力強い。

橋本、津山、上手奥から登場。

津山、怯えている。

橋本 大丈夫だから。

津山 ケンカしたり、泣きながら歌ったり、何なの？

橋本 ほっといいいよ。病気みたいなもんだから。

津山 病気？

橋本 うん。大人がかかる病気。

津山 かつたらどうなるの？

橋本 熱が出てうわごとを言っつて、フラフラして終わり。後になつてどうかしてたつて思つうだけ。

津山 子供はかからない？

橋本 子供がかかると大変だね。死んじやうかも。

津山 ハシモは大人？

橋本 老けた子供かな？ ひねくれてる。

津山 あたし、あんたより大人だよ。

橋本 知つてるよ。

相馬、上手奥からキノコの歌を歌いながら登場。

相馬 何やつてんの？

橋本 あ、ちよつと……

相馬 面白くなつてきたなあ！ ついに第二章が始まつたな。俺たちは宣戦布告するわけだ。日本国に。え？

橋本 ちよつと静かにしてもらえます？ 津山さんがあれなんで。

相馬 今日はお前、しょうがないよ！ 今日騒がないでどうする！ 今なら何でも出来るぞ、俺！

橋本 ……

津山、スケッチブックを出して、絵を描く。

相馬 あ、ちようどいい。俺を描いてくれ。

津山 え？

相馬 最後に絵ぐらい残したくてさ。

津山 ……やだ。

相馬 ……何でだよ。

津山 好きなものしか描きたくない。

相馬 そんなこと言わないでよ。

津山 やだ。

相馬 ……おい…描かれる価値もないのか、俺は。え？ それがお前、死んでいく者に対する態度か？

橋本 相馬さん。僕、描きます。

相馬 お前なんか描いてもらいたくねえよ！……ちよつと見せろ！

相馬、津山のスケッチブックを取り上げる。

津山 返してよ！

相馬 ちようちよに……ひまわりに……何だ？ これ。

相馬、津山にバツタの絵を見せる。

津山 ……バツタ。

相馬 へえ……バツタ以下か、俺は。バツタの絵が描けても俺は描けない、
へー、なるほどね。

津山 ハシモ、この人は大人？

橋本 子供じみた大人かな。

相馬、津山のスケッチブックを破っていく。

橋本、相馬の手から強引にスケッチブックを奪い返す。

橋本 やめろよ。みっともない。

相馬 (橋本に怯えながら) ……誰も俺を……俺を……描く資格はない！

相馬、玄関から去る。

橋本、破れたスケッチブックを集めて、津山に渡す。

橋本 ちよつと休もうか？

津山 うん。ありがとう。ねえ、ハシモ。

橋本 うん？

津山 ハシモ、ここはハシモがいる場所じゃないと思う。

橋本 何で？

津山 ここは棺桶に片足突っ込んでる人の場所だから。

橋本 似たようなもんだよ、僕も。歳が若いだけで。

津山 ううん。ハシモのは「振り」をしてるだけだから。ウソっぽい。

上手奥から拍手が起こる。

橋本、津山、少しの間、上手奥を見て、下手奥に去ろうとする。高橋、上手奥から、走って登場。

高橋 どっち？

橋本 え？

高橋 相馬さん。

橋本、玄関を指す。

高橋 次、あたしの番だから。

橋本 はあ。

津山 あいつに何の用？

高橋 ダンス教えるの。

津山 ダンス？

高橋 そう。情熱的なやつをね。

高橋、玄関から去る。

上手奥から万歳三唱が聞こえてくる。

橋本 考えてみるよ。さつき言われたこと。

津山 そうして。

橋本、津山、下手奥に去る。

藤川、小宮山、三島、阿部、遠藤、丸山、歌を歌いながら、
玄関から登場。

ロビーには誰もいなくて、薄暗い。

三 島 お邪魔します！

小宮山 声大きいですよ。

三 島 (やはり大きく) え？

小宮山 もう！

遠 藤 誰もいないみたい。

丸 山 もうすぐ夕飯じゃないのかな。

藤 川 ちよつと見てきましようか。

阿 部 いい、いい。休んでましようよ。随分歩いたし。

小宮山 皆さん、お元気ですね。

三 島 それ、嫌み？

小宮山 いえいえ！

三島 余命三ヶ月、

三島と遠藤、手を挙げる。

三島 と、余命六ヶ月で鬱病。

阿部、手を挙げる。

三島 と……何だっけ？ 丸山さんは。

丸山 何でもないの。夫の介護をしてただけど死んじゃって、それで気付いたら「あれ？私一人だ」って。「やることないなあ。まあ、行くか」って。

小宮山 恐れ入りました。

藤川 皆さん、心がからっとしてる。

三島 そう、からっぽなの。

藤川 いえいえ、

三島 でも本当にね、軽い感じ、今。

阿部 いいなあ。あたし、ちよつと焦る。

遠藤 本当？ あたし、ない、そういうの。

阿部 いや、何したらいいかなあつて。

遠藤 あたし、誰もいないの、もう。親も親戚も子供も。天涯孤独なの。だから、後三ヶ月自由に暮らせると思うと、こんな夏休みみたいな時間、最高だなんて思つて。今あたし何にでも感動できるよ。このイスにも、あのステンドグラスにも、（阿部を触つて）阿部さんのこの、皺だらけの顔にも。

阿部 失礼しちゃう。

遠藤 ごめん、ごめん。え？ ここ、教会なのかな？

藤川 そうみたいです。

丸山 （ステンドグラスを指して）きれいだね。

藤川 はい。

上手奥、下手奥、上手階段、玄関から、入居者たちが静かに
登場。

巡礼者たちを包囲する形になる。

小宮山 (彼らに気付いて) あ、どうも。

清水 誰だ!

三島 いや、そんな大げさなことじゃないですよ。

藤川 こちらに是非一度来てみたいと思つてたものですから。

小宮山 「聖地」ですよね? ここ。

清水 ……今、ちよつと取り込んでましてね。

三島 失礼しました。玄関あいてたもんだから、ついね。すいません。

灰田 ……お引き取り願えますか?

阿部 ちよつと待つてよ。

遠藤 やつとたどり着いたんですよ。ちよつとくらい、

灰田 すみません。お帰り下さい。

丸山 そんな、

清水 ほら、さつさと。

藤川 帰るところなんてないんです! 私たち。ここはそういうところでしょう?
最後に門を叩きに来るところでしょう? 何ですか? 帰れ
つて。

灰田 仕方ありません。おい！

清水ら、巡礼者たちを捕まえようとする。

三島 (カプセルをポケットから取り出して) 来るな！ 来たら飲む……

巡礼者たち、毒薬をそれぞれ取り出して、飲むとする。

灰田 やめなさい！

目黒 ダメだよ。そんな簡単に死んじや。

丸山 うるさい！

目黒 その前に内臓いただくこと出来ますか？

巡礼者たち、笑う。

三島 持ってけ、持ってけ！ ただし、頭の先からつま先までガンが転移してると思うよ。ハハ！

目黒 いえ、じゃあ結構です。

三島 現金なやつだな。

阿部 ああ、俗物だ。

巡礼者たち、笑う。

目黒 笑うな！

遠藤 ごめんなさいね。モルヒネの影響だと思っただけど。

三島 取りあえず……腹減った。何か食わせてくれ。

小宮山 何かあるだろう？ おにぎりでもいいから。

藤川 おにぎりが、いいんでしょう？

小宮山 俵型のね。

阿部 あー、梅干し食いたい！

灰田 ……わかりました。こちらへ。

清水 いいの？

灰田 仕方ないよ。

瀬田、縛られた川口、そして、沼津を残して、他の者は上手奥に去る。

沼津 大丈夫ですか？ 二人とも。

川口 ああ。心配するな。

沼津 キノコちゃんも？

瀬田 大丈夫キノ。

沼津 ああ、キノコちゃんですね、今は。……二人とも今までお疲れ様でした。少し休んでください。キノコちゃん、覚えてますか？ あなたは電車の切符の買い方も知らなくて、隣にいる僕に聞いたんですよ。「切符買わせてください」って。その頃あなたはもうそんなに人気はなかったのかもしれないけど、僕はすぐにファンになりました。だって、あなたはとても純粋な魂を持っていましたからね。

川口 隣で聞いてて、こっ恥ずかしいぞ。

沼津 でしょうね。ちよつと酔ってるんで。でも言えて良かった。それじゃ。

沼津、上手奥に去る。

縛られた川口、笑う。

川 口 つくづく自分のやって来たことがバカみたいに思えるね。

瀬 田 バカって言う奴がバカだよ。

川 口 ……だから、そう言ってるよ。

瀬 田 ……あんた、独り？ ずっと。

川 口 そうです。妻も子供もいません。 ……あなた、今、瀬田さん？ それとも…

瀬 田 何だか眠いキノ…

川 口 どっちでもいいや……伝えといてください。キノコちゃん、……僕も恥ずかしいと言います。 ……僕はずっと、あなた一筋でした。 ……キノコちゃんじゃなかったとしても今だけそのことは黙っていて下さい。(瀬田のほっぺたにキスをする)……でも、もうそれも過去のこと。忘れます。さようなら。

瀬 田 ……(川口に唇を近づけて) 続けて。

川 口 え？

瀬 田 ほら、もっと。こっち(胸)も触ってよ。

瀬田、川口の手を取る。しかし、川口、それを振り払う。
瀬田、川口に迫っていく。

川口 やめて下さい。瀬田さん？

瀬田 いいじゃない。何でもするからさ。ね？あんたの友達もみんなやってたよ。

川口 ウソだろ？

瀬田 本当、本当。さっきの奴なんてほぼ毎晩だよ。純粹がどうのこうの言ってるさ。笑っちゃうよ。本当、あんただけだよ、手出してこないのは。
(色っぽく) だから、ほら、ねえ。

川口 …誰だよ？あんた。

瀬田 (常軌を逸したように、けたたましく笑って) 誰でもいいよ。(突然色っぽく) ねえ、抱きしめてくれよ。ぎゅーっと。簡単じゃないか、そんなこと。

川口 嫌だ。

瀬田 きれいな事言って。

川口 あなたは病気なんですよ。養生して下さい。

瀬田 うるさい！これは復讐なんだ！復讐！復讐！お前ら男に対する！許すもんか！絶対に！

川口 瀬田さん。

瀬田 （呆然として）……そろそろお乳の時間だキノ。

川口 え？

瀬田、玄関に向かって歩き出す。

川口 どこ行くんですか？

瀬田 ……山に行く。

瀬田、玄関から去る。

川口 え？……どういうこと？……ねえ、ねえ！……ちよつと！ちよつと待って下さい！……誰か！誰か！……瀬田さん！待って！……誰か！

戸畑、上手階段から登場。

戸畑 どうしたんですか？

川口 あ、瀬田さんが山に行くって。そこから出てっっちゃって。

戸畑 ああ。

川口 ちよつと追いかけてもらっていいですか？

戸畑 え？ だって、自分で行くって言ったんでしょ？

川口 いや、そうですけど。

戸畑 じゃあ、しょうがないでしょう。念書ももらってるし。

川口 そんな！ じゃあこれほどいてくれ！

戸畑 本人の意思を尊重しましょうよ。

川口 それじゃ俺たちのやってきたことの意味がないだろう！

戸畑 それはあなたの都合じゃないですか？ まあ、また元に戻ったってことですよ。

川口 ……

戸畑 それよりもなんか、パトカーがたくさんこっちに上がって来るのが見えたんですけど。

川 口 (状況を察して力が抜けるように) あーあ。
戸 畑 どうしたらいいんですかね。
川 口 どうもこうもないでしょう。終わりってことだから。

点滅する無数の赤いランプに部屋が照らされていく。

戸 畑、川口、ランプの方向を見る。

サイレンの音も徐々に大きくなってくる。

戸 畑 きれい……ひとだまって見たことあります？

川 口 ひとだま？

戸 畑 ええ。

川 口 ないよ。

戸 畑 あんな感じなんですかね。燃えてるみたい。

川 口 血の色にも見えるよ。

戸 畑 ひとだまって半人前の霊かもって思うんですよ。顔がないからきつと誰からも忘れられて。

川 口 火の玉みたいにゆらゆらしてな。

戸畑 自分が誰だかわからないから。

川口 (ランプの光を手で遮るように) まぶしい。
戸畑 きれい。

名取、杖をついて、下手奥から登場。

名取 試されてる！ 試されてるんだよ、今！

スクリーンにこの建物の廊下が映し出される。次のナレーションの間に、清水、灰田、沼津、川口、真木、和美、ジョージ、矢野の順番でカメラの前を通る。清水は呆気にとられている。沼津は冷静、川口は疲労困憊で、和美と真木はオドオドとしている。灰田はカメラの前で少し立ち止まり、両手でピースサインをする。江口が灰田を前に進ませる。

市川、荒木、小谷が割り込むように画面に現れ、「私たちのふるさとを返せ！」「カルトはここから出て行け！」などと灰田たちに向かって言って、去る。

ナレ 「聖地」と名付けられた建物に老人を集め、臓器の売買や幼児の誘拐を行っていたメンバーが逮捕されました。キノコ様と呼ばれていた首謀者と見られる女性は、すでに自殺しており、事件の全容を説明するには困難が予想されます。

老女がソファに寝そべっている。

スクリーンが上がる。

老女が羽織っているのは、盗まれた子供を包んでいたおくるみと同じものである。老女は手に盗まれた子供が持っていたものと同じぬいぐるみを持っている。

再びソファに寝そべる。

女

よいしょ……（ぬいぐるみに）……そろそろ行かなくちゃ。……うん、ごめんね。ずっと一緒にはいられなかった。……でも安心して。また誰かがきつと、絶対、ここに来るからね。ここは、そういう場所だから。大丈夫。……うん。……だから、それまで……おやすみ。

ぬいぐるみを寝かせて、自分も毛布をかける。

彼女の上に「時間」が降り注ぐ。

木下小春、説教台の裏から登場。声に出さずに「一緒に行こ

うね。」と言って、消える。

枯れ葉などが舞台を覆っていく。

時には古くなったスケッチブックの絵であったり、写真であったり、木は倒れて、家具は砂をかぶる。

後藤、平出が玄関から登場。

後藤 すいません。失礼します。

平出 ちよっとお邪魔しますね。

後藤 誰もいないじゃない。

平出 でも報告があつたんで。

後藤 また例の幽霊話じゃないの？

平出 キノコ様ですか？

後藤 そうそう。

平出 確かにここはみなさん、怖くて立ち入らないですからね。出るって言うって。

後藤 やめてよ。ちよっと掴んでいい？

平出 (笑って) どうぞ。

後藤 教会だったの？

平出 そうみたいです。老人運動が活発だった頃の駆け込み寺みたいな。

突然、ぬいぐるみのスピーカーが鳴り出す。

瀬田の力のない声がああ歌を歌う。

③あなた 私のあなた

平出 え？

後藤 わ！何？何？

平出 痛い痛い！

後藤、平出、ソファに気付いて近づく。

平出、枯れ葉を払うと、老女が現れる。

平出 死んでる。

後藤 うん。(ぬいぐるみを取り上げて) びっくりさせないでよね。

平出 誰も気付かなかったのかな。

後藤 身内もいなかったみたいね。かわいそうに。こんなあばら屋で。

二人とも合掌する。

平出 笑ってませんか？

後藤 気のせいでしょ。人、呼んでくる。

平出 私も行きますよ。

後藤 怖いの？

平出 そっちだって。

後藤、平出、ぬいぐるみを下に置き、玄関から去る。

ぬいぐるみからまた、瀬田の力のない声が流れ出す。

歌の続きだ。

瀬田(声) 約束してくれたよね いつかここから

連れ出してくれるって

一緒に行こうね 光降る丘へ

あの思い出の地が灰に変わる前に

ステンドグラスからの光が少し強くなり、また弱まる。

歌が途切れる。

暗転。

第二部・完